

学報

NARA MEDICAL UNIVERSITY

Special Feature

vol. **92** 2025
春号

理事長・学長からのメッセージ vol.35

新キャンパスが開校しました



奈良県立医科大学 畝傍山キャンパス竣工



奈良県立医科大学
Nara Medical University

Contents

特集

理事長・学長からのメッセージ vol.35	3
新キャンパス（畝傍山キャンパス）が開校	7
令和6年度 卒業式	8
令和7年度 入学式	10
退任の挨拶／就任の挨拶	12
働き方改革だより	13
第4期中期計画を策定しました	14
令和7年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算	16
国際交流センターだより vol.19	18
先端医学研究支援機構だより	20
図書館だより	22
看護部の紹介	23
MBT 研究所だより（第36報）	24

Topics

Campus News

プログラム医療機器（SaMD）の導入と運用体制の整備に向けて	25
奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が奈良県・Nara Challenging Startup 支援事業に認定されました	26
2巡目医学教育分野別評価の認定を受けました	26
地域基盤型医療教育協力施設講演会を開催しました	26
新キャンパス（畝傍山キャンパス）の内覧会を行いました	26
TQM 大会を対面開催しました	27
医学看護学合同教育科目「奈良学」を開講しました	28
「AI 北海道会議」設置記念シンポジウムにてMBT 講演しました	30
奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました	30
南十勝夢街道プロジェクト推進会議にてMBT 講演しました	30
一類感染症患者受け入れ訓練を実施しました	31
第20 回地域医療連携懇話会を開催しました	31
院内コンサートを開催しました	31
小学校5 年生を対象としたDMAT の講演を行いました	31
令和6 年度 リサーチ・クラークシップ成果発表会を開催しました	32
協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました	33
MBT みんなで守るいのちの上映会を開催しました	33
MBT 研究所運営会議を開催しました	34

Winner Report

宮田幸比古記念 ALS 研究助成基金を受賞しました	34
武田科学振興財団研究助成金を受賞しました	34
奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が奈良県・大学等発スタートアップ支援補助金に採択されました	35
第42 回奈良県公衆衛生学会において最優秀演題賞を受賞しました	35
Radiological Society of North America (RSNA) 2025 Education Exhibit Awards 受賞	35
西日本医学生学術フォーラム 2024 において奨励賞を受賞しました	36
第31 回肝血流動態・機能イメージ研究会において優秀演題賞を受賞しました	36
奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」がDeep Tech Venture of the Year 2025 を受賞しました	36
奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が三菱UFJ 技術育成財団・研究開発助成金に採択されました	36
日本アレルギー学会 2025 年度サノフィ優秀論文賞を受賞しました	37
令和6 年度 学位授与の状況	37
IJU Reviewers of the Year 2023 を受賞しました	38
WONCA APR 2025 でPromising Research Awardを受賞しました	38

Information

公開講座情報	38
令和7 年度入試結果	38
未来への飛躍基金だより	39
「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました	39
メディア掲載情報	40
編集後記	40

寄附者ご芳名

開学80周年ならびに新キャンパス開校

本学は令和7年度に開学80周年を迎え、あわせて畝傍山キャンパスのオープンという新たな節目を迎えました。畝傍山キャンパスは、現キャンパスの南西約1キロメートルの旧奈良県農業研究開発センター跡地に開校しました。敷地面積は約12ヘクタールで、現キャンパスと合わせると敷地はほぼ2倍になります。ここで学ぶのは医学部医学科の教養課程(1年生)と看護学科の全課程(1～4年生)です。

学歌の制定

この記念すべき年にあたり、本学では新たに公立大学法人奈良県立医科大学の「学歌－奈良から世界へ－」を制作いたしました。制作に至った経緯を述べたいと思います。

平成29年に当時の荒井奈良県知事から医学科と看護学科の統合の象徴として、法人としての大学のシンボルマーク、イメージキャラクターの制定が求められ、シンボルマークおよび「しょうとくた医師くん」は制定されたものの、学歌は未制定のままとなっております。今回、医学科同窓会の役員や医学科・看護学科の同窓の方々から法人としての学歌制定のご要望をいただきました。

全国的には、法人化後、新たな法人歌・大学歌を制定する動きがありました。たとえば香川大学では新香川大学の発足に合わせて香川大学学歌が制定されました。大阪公立大学では大阪府立大学と市立大学の統合に伴い大学歌が制定されました。信州大学は創立70周年を機に大学歌を制定しています。また東京大学では、平成16年に学歌を制定すべく選考委員会が組織され、歌詞の公募により74作品が寄せられましたが制定には至りませんでした。

このようなことから、80周年記念および新キャンパス開設を契機に、医学科、看護学科を含めた法人としての理念を反映した学歌を制定する運びとなりました。制作にあたりましては、80周年記念委員会の中に「学歌部会」が設置され、制作方針が決定されました。歌詞については、公募した場合東大事例などのように記念式典までに制定できない危惧があったため、大学の理念を理解している学長である私に作詞の依頼をいただきました。作曲については、縁あってNHK大河ドラマ「どうする家康」の音楽も担当されたピアニストで作曲家の稲本響さんに担当していただくことができました。山下奈良県知事のご賛同を得て学歌の作成、制定を行い、知事には後述のレコーディングにもご参加いただいています。

この学歌は、本学のみならず奈良県民の皆様にも愛され、地域社会が心をひとつにする象徴となることを期待しました。文部科学省が進める「地域に開かれた大学づくり」「知の拠点化」の流れの中で、大学は地域社会との交流促進も使命とされています。このような観点から、奈良医大の関係者だけでなく広く県民の皆様にも参加いただき、「学歌－奈良から世界へ－」のレコーディングを行いました。多くの皆様に学歌を通じて本学の理念をお伝えし、共に新たな歴史の一步を刻みたいと考えています。この学歌を皆様に口ずさんでいただけたら幸いです。

「THE 日本大学ランキング2025」教育リソース分野で全国第5位にランクイン

英国の教育専門機関タイムズ・ハイヤー・エデュケーション (THE) が発表した「THE 日本大学ランキング2025」において、本学は分野別指標「教育リソース」において全国第5位にランクインしました。ランキングは、「教育リソース」「教育充実度」「教育成果」「国際性」の4つの分野で構成されており、そのうちの「教育リソース」において、1位東京医科歯科大学 2位東京大学 3位浜松医科大学 4位京都府立医科大学に次いで第5位となっています。なお、東北大学は7位、京都大学は8位です。

このような高い評価をいただけたのも、評価指標となっている論文発表数や競争的資金の獲得数、大学合格者の学力など、日頃の皆さまのたゆまぬご努力の賜物です。心より感謝申し上げますとともに、今後とも変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

University

Anthem

奈良県立医科大学 学歌

奈良から世界へ

作詞 細井 裕司

作曲 稲本 響

$\text{♩} = 96$ [1番]



い ど み の こ ころ ー こ
こ に あ つ ま り あ ら た な
じ だ い を と も に つ く ら ん
い り ょ う と か が く の ー わ く を ー こ え ー
ア ン ト レ プ レ ナ ー の ー こ こ ー ろ い だ き て ー な
ら か ー ら せ か い へ か が や ー く み ら い へ み ち ー を
ー ひ ら か ん ー せん ね ん ー の れ き し に つ
ら なる この ち い の イ ノ ベ シ ョ ン を す す め る わ か き こ こ ー ろ
ー せ か い へ ー と は ば た く ゆ め を ー い だ き
て み ら い を ひ ら く ち か ら し ん じ な ら よ り は っ す ー



$\text{♩} = 125$ [2番]

や ま と さ ん ざ ん の か

げ を せ に し て う ね び

み み な し あ ま の か ぐ や ま

ふ じ わ ら き ょ う - の い - に し え - あ と

み と う の み ち を き - り ひ - ら き い

ど み - の は た を - い ど み - の い し で - い ま - も

- か か げ ん - や ま - と の そ ら は

き よ く - す み わ た り - こ と の か ぜ は わ れ ら を つ つ - む

- い の - り そ う を た か く - か か げ て よ の

な か か え ん ほ こ り む ね に せ か い に た た ん -

奈良県立医科大学 学歌

奈良から世界へ

1

挑戦の精神 いしどみ こころ ここに集まり あつ
新たな時代を あら じだい 共に創らん とも つく

医療と科学の粋を超え いりよう かがく わく こ

アントレプレナーの心抱きて あんとれぷれなーの こころいだ

奈良から世界へ なら せかい 輝く未来へ かがや みらい

道を拓かん みち ひら

千年の歴史に せんねん れきし 連なるこの地 つら

医のイノベーションを進める若き心 い の い べー し ょん を す す め る わ か こころ

世界へと羽ばたく せかい は 夢を抱きて ゆめ いだ

未来を拓く力信じ みらい ひら ちからしん

奈良より発す なら はつ

2

大和三山の影を背にして やまとさんざん かげ せ
畝火、耳成、天香具山 うねび みみなし あまのかぐやま

藤原京の古跡 ふじわらきょう いにしえあと

未踏の道を切り拓き みとう みち き ひら

挑戦の旗を いどみ はた 挑戦の意志で いどみ いし

今も掲げん いま かか

大和の空は やまと そら 清く澄み渡り きよ す わた

古都の風は我らを包む こと かぜ われ つつ

医の理想を い りそう 高く掲げて たか かか

世の中変えん よ なか 誇り胸に ほこ むね

世界に立たん せかい た

新キャンパス（畝傍山キャンパス）が開校

新キャンパス（畝傍山キャンパス）が開校しました

本学は、県内唯一の医育機関ですが、老朽化した建物が多く、加えて学生数の増加、大学機能の多様化による講座・領域数の増加などにより、施設の狭隘化が進んでいることから、現キャンパス（四条キャンパス）の約1km南西に位置する旧奈良県農業研究開発センターの移転跡地等に新キャンパスを整備しました。「教育」「研究」「診療」の全部門が集中立地している現キャンパスから、医学科の教養教育部門と看護学科が学ぶキャンパスとなります。

・敷地面積（R6.6.1 現在）

116,548㎡（現キャンパス：104,024㎡）

・延床面積 29,196㎡

講堂・図書棟：鉄筋コンクリート造3階建 5,828㎡

講義棟：鉄筋コンクリート造3階建 9,144㎡

実習研究棟：鉄筋コンクリート造3階建 9,223㎡

体育施設棟：鉄筋コンクリート造3階建 4,289㎡

その他：廃棄物保管庫・回廊・渡り廊下



畝傍山キャンパス 全景

かつての藤原京の中に位置するという歴史的背景を踏まえ、藤原京の大極殿院とその朝廷になぞらえた講堂図書棟や前庭を中央に配置。南側に畝傍山を望み、歴史的な街並みや景観を考慮し、周辺地域との調和のとれたキャンパスとしました。

●講堂図書棟

キャンパスの中心施設として、伝統と技術を融合した象徴性のある大庇を設え、式典、学会、発表、レセプションなど様々な活動に対応可能な講堂を整備しました。また、本に囲まれた落ち着いた医学と看護学の図書館は、多様な学習方法や過ごし方に合わせて医療・看護の学習・研究活動をサポートします。



講堂（収容人数 600 名）



図書館

●講義棟

学生が多くの時間を過ごす講義棟は、学習意欲が向上する様々なラーニングスペースを配置。良き医療人を育む充実した学習・教育環境を目指し、他職種連携の基盤形成を図るラーニングコモンズ、医看合同講義室を設置しました。また、建物中央に位置する天窓を持つアトリウム（学生ホール）は、学生間の情報交換の場として、学生生活を支える活気のある空間を演出しています。



講義棟 医看合同講義室



講義棟 学生ホール

●実習研究棟

実習・研究に特化した様々な議論・交流スペースを配し、専門的、実践的技術の習得やアイデアの創出に寄与する環境を整備しています。1階医学実習フロアと2階看護実習フロアをつなぐコミュニティステップ（大階段）は、階段と吹抜の空間を生かした学生のコミュニケーションスペースで、つどいの前庭からのアプローチに対する実習研究棟の顔となる空間としました。



実習研究棟 看護実習室



実習研究棟 医学科実習室

●体育施設棟

アリーナ、トレーニングジム、板間道場、部室など機能を一体化し、多目的な利用、各諸室からの動線に配慮した建物です。東側にピロティを確保することで、他棟・構内道路からアクセスしやすく、憩いの場となる学生広場との互換性のある空間となっています。



アリーナ



弓道場

大学HP 地域向け広報紙「奈良医大キャンパスだより」においても畝傍山キャンパスを特集していますので、こちらをご覧ください。

<https://www.naramed-u.ac.jp/university/gaiyo/campusdayori/index.html>



令和6年度 卒業式

式 辞

学長 細井 裕司

春の訪れを感じる今日の良き日に医学部医学科 106 名、医学部看護学科 81 名、合計 187 名の卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。また、卒業する学生を今日まで慈しみ、支え、育ててこられたご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。公務ご多忙の中御臨席いただきました奈良県議会議員 亀甲義明様をはじめ、ご来賓並びに関係各位に心から厚く御礼を申し上げます。

奈良医大は一生涯の宝

満足のいく人生を送るために、最も助けになるのは友人です。大学時代の友人は、本当に親身になってくれますので、安心して相談ができる人々です。一生の宝です。それにも増して大きな宝があります。それは、母校奈良県立医科大学です。皆さんが卒業後、40 歳、50 歳、60 歳になったとき、母校の力が必要な時があると思います。奈良県立医科大学の卒業生で良かったと感じる時が必ず来ます。少し皆さんの在学中の出来事を振り返りたいと思います。

入学時オリエンテーション：6 年前、奈良県立医科大学に希望を抱いて入学されました。6 年経った今、次のステップへの飛躍を誓われていることと思います。

白衣授与式（医学科）：Student Doctor の表示が見えます。医師に近づいてきました。医学修得の意欲がますます大きくなってきた頃です。

学生による大学紹介（看護学科）：学生が奈良医大のプレゼンを行いました。皆さんのアピールが多くの高校生の心を動かし、奈良医大看護学科への入学希望者が増えたと思います。

大学祭（白檀生祭）：大学祭では、楽しいひとときをすごされたことと思います。

国内外での実習：先輩やご父兄の寄付による「未来への飛躍基金」の援助のもと、国内外の有力大学や研究所で実習をされ

ました。学外の多くの人と接することにより得られたものは、必ず将来に繋がります。

MBT 特命教授 特別講義：医学界と同様に他分野の人々の話を聞き、自己を考えることも重要だと考えています。各界の著名人に本学の特命教授になっていただき、これまでに、ダイソー創業者の故矢野博丈様、DMG 森精機社長の森雅彦様、コシノジュンコ様、パナソニック前会長の長榮周作様、クオールホールディングス会長の中村勝様、金融界からは城南信用金庫の川本恭二様に講義していただいています。

アントレプレナーシップの醸成：アントレプレナーシップとは「新しい事業分野を起こそうとする精神」です。新しい事業分野を切り開くために必要な想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さのことを意味しています。医師、看護師においてもこの精神は重要だと思います。大学発ベンチャーを起こすことによって、環境を整備しました。

皆さんの未来・卒業後

皆さんの卒業後も奈良医大は進化、発展して参ります。皆さんは卒業された後も母校奈良医大と強い繋がりを持ち、母校の発展は皆さんの一生の心の拠り所となります。近い将来の奈良医大の発展の一端を示します。

2 月 13 日、山下知事を迎えて畝傍山キャンパス竣工の式典が行われました。この四条キャンパスに加え、最新の教育設備が整った新しいキャンパスが完成しました。敷地面積は現キャンパスとほぼ同じで、建物は、かつての藤原京の中に位置するという歴史的背景を踏まえたデザインになっています。クラブ活動のための施設が充実しており、OB になる皆さんにも利用していただく機会があると思います。私は、個人的には、未利用の敷地に世界的な研究所や最先端の治療設備を誘致したいと考えています。

そして、現キャンパスを「四条キャンパス」と名付けました。先頃、この四条キャンパスに建設を予定している新 A 棟の骨格が奈良県との話し合いで決まりました。新 A 棟は南向き玄関で奈良医大前にできる近鉄の新駅と直結します。私は長年、医療者、



医学科卒業生

患者の動線など機能面から現在の 31 m の高さ制限の緩和を訴えてきました。45 m までの緩和について、橿原市の認可を得るよう働きかけています。認可されれば高層の病院が実現します。

医工連携は、奈良医大の将来を考えたとき、極めて重要な課題だと認識しています。医科の単科大学にすべての業種の企業が集まる、世界的にも珍しい MBT コンソーシアムを設立し、多くの企業に医学的知識を提供し、共同事業を行って参りました。医工連携を進めるためには、単科大学である奈良医大だけの力では限界があります。そこで、高いレベルの工学的知識や技術を擁する奈良先端科学技術大学院大学と「一般社団法人・奈良先端医工科学連携機構」を設立しました。本年度末をめどに、文部科学省からこの法人に対して、「大学等連携推進法人」の認可を受けるべく申請をしています。この連携は、奈良医大の医学のレベルを高め、皆さんの研究にも大いに寄与すると期待しています。

皆さんの誇り

私がなぜこのような話をしたのか、それは、皆さんが独自の視点と考えを持った、挑戦し続ける医科大学で学んだことに誇りを持っていただきたいからです。この進取の気性に富んだ大学で育ったことは、将来において「挑戦する人、挑戦し続ける人」になる土台となります。そして、独自の視点、独自の考え、挑戦する意欲を持つことによって、卒業後、日本や世界で存在感のある人に成長していくでしょう。

式辞を終わるにあたり、詩を贈りたいと思います。皆さんは持って生まれた素晴らしい素質に恵まれ、奈良医大で大きな能力を身につけて世の中に出発されます。この詩に込められた内容は、皆さんの能力を挑戦（いどみ）の心で世の中に生かして欲しいという、私の、そして皆さんの母校奈良県立医科大学の願望であり、確信です。この詩のタイトルを「奈良から世界へ」としました。この詩に世界的な作曲家でピアニストの稲本響先生に曲をつけていただきました。稲本先生は NHK の大河ドラマの音楽を担当されていたことなどからご存知の方も多いと思います。そしてこの楽曲は奈良県立医科大学学歌として世界に発信していく予定です。



看護学科卒業生

新たな旅立ち（医学部卒業式 大学院修了式 令和 7 年 3 月 14 日）

今年も 245 名の若き俊英が旅立ちました。本学のみならず、広く日本、そして世界の医療・医学の向上に大きく貢献してくれることでしょう。（245 名：医学科 106 名、看護学科 81 名、大学院医学研究科博士課程 43 名、同修士課程 5 名、看護学研究科修士課程 10 名）

また、式の中で、次の賞の受賞者が発表されました。（敬称略）

◆奈良県立医科大学学長賞

医学科 6 年間または看護学科 4 年間の課程で最も優秀な成績を収めた者

かわぐち みゆう
医 学 科：川口 美優

さとう
看護学科：佐藤 めぐみ

◆医学科同窓会厳樞賞、看護学科同窓会華樞賞

- ①クラスのリーダーとして顕著な活躍をした者（ヒーローオブザクラス）
- ②ボランティア活動などで社会に特に顕著な功績があった者
- ③クラブ活動など課外活動で特に優秀な成績をあげた者

いつかし たまき ともたか すずき さとし
厳樞賞：玉置 智隆、鈴木 慧士

はなかし やじ さくら
華樞賞：家地 桜花

学長賞受賞者

医学科 川口 美優

この度は学長賞という名誉ある賞をいただき、大変光栄に存じます。これまで積み重ねてきた努力が受賞という形で実を結んだことを大変嬉しく思うと同時に、いただいた賞に恥じぬよう、身の引き締まる思いです。

大学生生活を思い返す中で、充実した 6 年間を過ごすことができたのは多くの方々への支えがあったからこそと実感しております。医学の奥深さや面白さを教えてくださった先生方や、常に最適な学習環境を整えてくださった職員の方々、共に切磋琢磨しながら支え励まし合った友人、そしていつも私のことを考え一番近くで応援してくれた家族には、感謝の気持ちでいっぱいです。

4 月から医師として新たな生活が始まります。患者さまに寄り添う気持ちを忘れずにより一層精進するとともに、周囲の方々に恩返しができるよう努めてまいります。



看護学科 佐藤 めぐみ

この度は学長賞という名誉ある賞を賜り、大変光栄に思います。コロナ禍で先の見えない不安を抱えながら始まった大学生活において、困難も多くありました。しかし、4 年間で振り返ると、日々学びのある充実した大学生活を送ることができました。これは、熱心に指導してくださった先生方や指導者の方々、

実習に協力してくださった患者さまやご家族、共に切磋琢磨してきた友人など沢山の存在があったからです。サポートしてくださった全ての方々に感謝申し上げます。

卒業後も大学での学びを活かしながら、学ぶ意欲を大切に、良い医療人となれるよう精進して参ります。重ねて、この度の受賞に心より御礼申し上げます。

令和7年度 入学式

式 辞

学長 細井 裕司

今日、春爛漫の良き日に医学部医学科112名、同2年次編入学生5名、医学部看護学科85名、合計202名の晴れやかな入学生の方を奈良県立医科大学に迎えることができますのは、私どもの大きな喜びとするところであり、入学生の皆さんに対し心から「おめでとう」と申し上げるとともに、大学を代表して歓迎の意を表します。また、入学する学生を今日まで慈しみ、支え、育ててこられた、ご両親やご家族の皆様に対して心からお慶びを申し上げます。なお、ご列席いただけない皆様方のために、この模様をウェブ配信させていただいています。公務ご多忙の中御臨席いただきました、奈良県知事 山下 真 様をはじめ、ご来賓並びに関係各位に厚く御礼を申し上げます。

みなさん、イチゴ摘みロボットを知っていますか。人がイチゴを摘む場合は、手前にある青く小さいイチゴを摘み取らず、奥にある赤い大きいイチゴ摘みとります。このことを実現したのがイチゴ摘みロボットです。カメラやセンサーで色を識別し、赤の度合いが90%以上だと判断すると、へたの上から切り取ります。「AI（人工知能）」という用語は、1956年にダートマス会議でジョン・マッカーシーらによって初めて提唱されました。AIの定義や範囲は時間とともに拡大し、現在では広範囲にわたる技術や応用分野を指す用語として使われています。60年以上が経過してはいよいよAI時代に入ってきたと言えます。AIと従来からの産業用ロボットの違いは何でしょう。それは自分で意思決定を行えるかどうかです。産業用ロボットはプログラミングされたことしかできないのです。同じ規格の部品を組み立てることはできますが、一つ一つ判断して作業することはできません。2017年の日経新聞で、1997年IBMの「ディープ・ブルー」がチェス世界チャンピオンに勝利、2013年将棋ソフトが現役男性プロに勝利、そして、2017年グーグルの α 碁が世界最強棋士に完勝したことが紹介されました。これ以上人間対AIの競技を行うことは意味がなく、グーグルは医療に力を注ぐことになります。実際に、まず画像診断の分野で大きな発展が見られるようになっていきます。内視鏡検査画像に対する専門医の診断範囲とAIによる領域予測の比較など、種々の医療分野でAIが取り入れられるようになりました。奈良医大では本年度著名なAIの専門家を2名教授として迎え、まず2つの講座を開講します。その後も充実を図り、AIセンターの開設を予定しています。医療分野における先駆的な業績が奈良医大から輩出することを期待しています。

AIの話が少し長くなりましたのは、奈良医大が世の中の進歩の先を見据えて、他学に先駆けて最先端の教育、最先端の医療を行う医科大学であることをご理解いただきたかったからです。さて、最先端の知識だけでよいのでしょうか。そんなことはありません。ここに奈良医大で学び、心がけていただきたいことを4つあげます。まず第1は、人生を豊かにする挑戦の

精神、アントレプレナーシップといっても良いと思いますが、これを修得していただきたいと思います。挑戦の精神を持つことは、必ずその人の人生を豊かにします。二つ目は、一生信頼できる友人を作ることです。三つ目は高度の医学、看護学を修得し、信頼される医療人になること、そして四つ目は、患者さんなど他人により添える心を持つことです。

奈良医大の特徴

奈良医大では、このようなことを学び、修得できる体制を整えています。発展する医科大学、面倒見の良い医科大学、進取の気性に富む医科大学、奈良を基盤にして全国展開する医科大学、そして他学にはない力を持つ特別な医科大学です。これらは、奈良県唯一の医科大学、特定機能病院として、奈良県の後立てのもとに実行されています。本日奈良県知事の山下様にご臨席いただいていることからわかりますように、奈良医大は奈良県によって、大切に支え育てていただいていると言えます。

発展する医科大学

教育、研究、臨床という医科大学の基本的使命については、教育改革、研究論文の質と量、病院機能の充実等、着実に発展していますが、ここでは、目に見える進捗を報告します。それは、継続して行われている大学の整備計画のうち、この4月から開設された新キャンパスと令和13年に完成予定の新病院棟です。新キャンパスは奈良県の全額負担で建設されました。皆さんはこの新しい講堂で入学式を行う最初の学年となります。2月13日には畝傍山キャンパス竣工式典を行いました。敷地面積は約12haで、かつての藤原京の中に位置するという歴史的背景を踏まえたデザインになっています。現キャンパスは「四条キャンパス」と名付けました。先頃、この四条キャンパスに建設を予定している新病院棟の骨格が決まりました。新病院棟は南向き玄関で奈良医大前にできる近鉄の新駅と近接します。令和13年の竣工を予定していますので、皆さんはこの最新の設備を持った新しい病院で研修することができます。

面倒見の良い医科大学

奈良医大は在学中だけでなく、医師や看護師として活動する一生をサポートします。入学された方を、特に専門教育面で、一生面倒を見る医療人育成機構が設置されています。また、奈良医大独自の「未来への飛躍基金」を用いて学生の海外留学を促進しています。今までに多くの先輩が海外で研修されました。国内の有力研究機関への留学も促進しています。

進取の気性に富む医科大学

単に医学の知識を教えるのではなく、医学以外の広い分野も知り、考える力を持つ医師・看護師を育てたいと考えています。その一貫として、アントレプレナーシップの醸成に力を入れています。アントレプレナーシップとは「新しい事業分野を起こそうとする精神」です。新しい事業分野を切り開くために必要

な、想像力や発想力、行動力、チャレンジ精神、リスクを恐れない勇敢さのことを意味しています。医科大学においてもこの精神は重要だと思います。総合大学と異なり、医科大学発のベンチャー企業は多くありません。そのような中、本学では8社が起業しています。私は、奈良医大の教職員だけでなく、学生にもベンチャーを起業する意気込みをもっていただきたいと思っています。ビル・ゲイツ氏もマーク・ザッカーバーグ氏も学生時代に起業しています。

アントレプレナーシップの醸成のために、経済界など各界の著名人に奈良県立医科大学特命教授になっていただき、学生に接していただくことによって、視野を広く持つ人間として成長できるように心がけています。これまでに、ダイソー創業者の故矢野博丈様、DMG森精機社長の森雅彦様、コシノジュンコ様、パナソニック前会長の長樂周作様、クオールホールディングス会長の中村勝様、金融界からは城南信用金庫の川本恭二様に特別講義を行っていただきました。

奈良を基盤にして全国展開する医科大学

奈良医大には今皆さんがおられる畝傍山キャンパス、四条キャンパス以外に全国に7カ所のキャンパスがあります。北海道、東京、大阪にひとつずつ、奈良県内に4カ所のキャンパスがあり、そのうち4つのキャンパスには大学院も設置しています。

特別な医科大学

私は、奈良医大が独自の視点で、日本に貢献することを考えてきました。その考えを実現するために、住居医学を打ち立て、そして20年かかって奈良医大独自のMBT構想が大きく社会に貢献するようになってきました。MBTは、2004年に私が

MBTのもととなる「住居医学」を発想し、大和ハウス様からの6億円の寄付により「住居医学寄付講座」を開設したことに始まります。その後、住居からまちづくりに進展しますが、その基本理念は、「医学的研究の知見を患者さんのために使うことは当然だが、それだけでなく、新製品開発や産業創生に応用してイノベーションを起こす。」というものです。

MBTコンソーシアム会員企業は2025年1月末現在164社であり、そのうち本社所在地が首都圏・関東にあるものが57社、関西にあるものが96社など、全国規模に広がっています。まちづくりに関しましても、22都道府県49カ所において、まちづくりに医学知識を投入しています。医科大がこのような規模でまちづくりに貢献している例はないと思います。これらの社会活動は日本経済団体連合会に認められ、奈良医大は経団連と連携して、MBT活動を全国展開しております。

贈ることば

この式辞を終えるにあたり、ある言葉を贈りたいと思います。それは、「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」です。皆さんは持って生まれた素晴らしい素質に恵まれ、奈良医大に入学されました。奈良医大で大きな能力を身につけていただきたいと思います。大きな能力を身につけられるかどうかは皆さんの心がけ次第です。挑戦する人になろうとするのか、挑戦する人にあれこれ言う人になるのかでは卒業時点で大きな相違が出てきます。もし皆さんが「あれこれ言う人」になっているのではないかと感じられたら「挑戦する人」になるように転換してください。人生がきっと豊かになります。

再度述べます。「挑戦する人か、人の挑戦にあれこれ言う人か。」

本日は本当におめでとうございませう。



退任の挨拶



総務・経営担当理事 事務局長 松山 善之

この度、4月1日付で県の会計管理者・会計局長を拝命し、過日着任いたしました。

医大では昨年4月の理事就任以来、「新A棟の整備に関する県庁との折衝」、「6年に一度の中期目標・中期計画の策定」、「例年を大幅に上回る規模の給与改定への対応と関連制度の見直し」、「新キャンパスの開校に向けた準備」など、例年では存在しない様々なミッションに対して、関係する多くの教職員の皆様と共に全力で取り組むことができました。心より感謝申し上げます。

県内唯一の医育機関であり、特定機能病院である奈良医大と同附属病院が県立であることは、本県にとって非常に大きな意義があると強く感じています。今後も奈良医大が一層発展し、地域社会に貢献し続けることを切に願っております。

お世話になり、誠にありがとうございました。



整形外科 教授 田中 康仁

皆様、大変お世話になりました。誠にありがとうございました。心から御礼申し上げます。入学から数えて47年間に奈良医大で過ごしたことになります。2009年には教授として教室を運営する機会を得て、大学生時代に務めていたラグビー部のキャプテンのような気持ちで、多様性の大きい診療科である整形外科を、開講以来の明るく自由闊達な雰囲気大切にしまとめていくことを心がけました。診療や研究でまだやりたいことが残っており、今後は少し時間もできると思いますので邁進していきたいと考えております。教授退任にあたり、これまでに頂戴いたしましたご厚情に深謝申し上げます。



皮膚科学 教授 浅田 秀夫

私は奈良医大を卒業後、一時奈良を離れておりましたが、2002年に母校へ戻り、それから23年間、また教授として18年間、大変お世話になりました。その間、後進の育成と研究活動に励む機会をいただき、充実した日々を過ごすことができました。教室の皆様や学生の皆さんと共に学び、成長できたことは、私にとってかけがえのない財産です。奈良医大のさらなる発展を心より願い、これまでお世話になった皆様に深く感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

就任の挨拶



総務・経営担当理事 事務局長 木村 茂和

この度、4月1日付けで理事（総務・経営担当）・事務局長を拝命いたしました。

本学では、「地域の安心と社会の発展への貢献」「安定した法人運営」を第4期中期目標の2本柱に掲げ、これからの6年間、目標達成に向け取り組んでまいります。

また、キャンパスの移転を機に、県立医大を中心としたまちづくりも進んでいこうとしています。このような重要な局面で理事に就任することとなり、重責の一端を担うことはやりがいを感じるとともに身の引き締まる思いです。

微力ではございますが、本学のさらなる発展のため、誠心誠意、全力で取り組む所存ですので、教職員の皆様方のご指導とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

働き方改革だより

明るい医療の未来を切り拓く！院内働き方改革講演会を開催



江口晋 教授

【テーマ】

長崎大学病院における医師の働き方改革の現状 —当教室における取組—

2025年2月18日、臨床講義棟第1講義室において院内働き方改革講演会を開催しました。長崎大学病院では、早期から病状説明の診療時間内実施、複数主治医制、医師から看護師等へのタスクシフトなどを推進されており、また、高度救命救急センターや外傷センターといった高度急性期の現場においても、現状の見直しや意識改革により勤務時間短縮につながる働き方改革に積極的に取り組んでられました。今回は、長崎大学大学院 移植・消化器外科学 江口教授にお話しいただいた講演内容を抜粋してご紹介します。

長崎大学では、一部の診療科で連携B水準（通算で年間1860時間以内、各院で960時間以内）を申請されていますが、病院全体で年間12,000件を超える手術に対応をされながらも**多くの診療科においてA水準**（年間時間外960時間以内）で運用されているとのことでした。（本学は全診療科でB水準の運用）

取組の一つとして、病院から患者・ご家族への業務・医療体制の周知のため、**複数主治医制**に対するご理解を依頼する旨や、**平日診療時間内に病状説明**を行う旨を長崎県内の3病院と連携し、**ポスター**を活用して周知されています。患者やご家族にも働き方改革への理解を深めていただくことで、医療従事者の健康管理と医療サービスの質向上に努められています。

指定の種類	長時間労働が必要な理由	年の上限時間
(A水準)	原則（指定取得は不要）	960時間
連携B水準	他院と兼業する医師の労働時間を通算すると長時間労働となるため	通算で1,860時間（各院では960時間）
B水準	地域医療の確保のため	1,860時間
C-1水準	臨床研修・専門研修医の研修のため	1,860時間
C-2水準	長時間修練が必要な技能の修得のため	1,860時間



患者・ご家族へのご理解・協力依頼ポスター

タスクシフトの観点からは、特定行為修了看護師の育成とともに、**診療看護師（NP）**の大学院課程への長期研修制度を利用して計画的に育成されています。

同時に、医師の健康確保も重大な課題と感じられ、以前は時間外に行われていたカンファレンスや抄読会を、定時に開催できるよう、**手術開始時間を遅らせる等抜本的なスケジュール見直しに着手**され、自診療科においても労働環境の改善に取り組まれました。（その分、手術室は非常にタイトに管理・運用されているとのことでした。）

また、働き方改革が若手医師の修練の妨げとなることを防ぎ、労働意欲に報いるための策として、施設基準の**休日・時間外・深夜加算1を取得**、その財源を原資として緊急診療に対するインセンティブ制度を導入され、外科医の処遇改善とともに病院の収益改善にもつなげられました。

講演後の質疑応答では「時間外加算1は内科医に対しては適用されないのか」といった質問も挙がるなど、活発な意見交換が行われました。



働き方改革プロジェクトリーダー
庄 教授

江口先生、非常に多岐にわたる取組実績をご披露いただき、誠にありがとうございました

第4期中期計画を策定しました

平成19年度からの法人化後、第4期目となる中期計画（令和7～12年度）が、中期計画委員会などでの議論を経て、この度完成しました（令和7年3月31日奈良県知事認可）。

中期計画は、地方独立行政法人法において、県が議会の議決を経て法人に示す中期目標（法人に期待する目標）を達成するための計画と位置付けられています。第4期中期計画は、県が中期目標において示す行政的観点からの種々の要請に対応しつつ、本学が第3期中期計画の成果を継承して、本学のさらなる発展、飛躍を実現できるよう、将来を見据えた内容となっています。

計画の概要は下記のとおりですが、中期目標において第3期の「地域貢献」「教育」「研究」「診療」「法人運営」の5本柱のうち「地域貢献」「教育」「研究」「診療」を「**地域の安心と社会の発展への貢献**」とし、「法人運営」を「**安定した法人運営**」とする2本柱へと改め、それに基づき本法人の基本的な役割として「教育」「研究」「診療」「法人運営」の各要素を網羅しています。

第4期中期計画（令和7～12年度）【概要】

I. 地域の安心と社会の発展への貢献

1 地域に貢献する医療人の県内定着

地域医療を支える人材の確保

- ・県の医療に貢献する意欲と資質を持った入学者確保のための取組を推進

奈良県の医療に貢献する人材の確保・育成

- ・地域医療への意識涵養に資する取組推進により地域医療を支える人材を確保

2 教育の質の向上

プロフェッショナルリズムの涵養

- ・プロフェッショナルリズムを涵養するためのカリキュラムを構築

医学・看護学・医療分野のリーダーとなる人材を養成

- ・医学科・看護学科の適切なカリキュラム構築により学修成果を向上
- ・診療参加型臨床実習の促進による臨床研修に備えた能力の獲得
- ・大学院における教育・研究プログラムの充実

教育プログラムの評価と改善

- ・教学マネジメントのPDCAサイクルによる教育内容の充実

授業評価アンケートの実施及び結果のフィードバック

- ・授業評価アンケート結果の教員へのフィードバック、評価結果を踏まえたFD研修会を計画・実施

第三者評価の継続的な受審

- ・医学教育分野別評価及び看護学教育評価等を継続的に受審し教育内容の質を向上

国際水準の医療・研究を学ぶ機会の提供

- ・海外・国内施設と連携し、国際水準の医療・研究を学ぶ機会の提供

医学・看護学医療情報リテラシーの充実

- ・図書資料を拡充し学習環境の整備、医学・看護学情報リテラシーの向上

3 学生への支援の推進

教育環境と学生支援の充実

- ・学生の要望等も踏まえ、アメニティ等の改善、学生面談、カウンセリング等学生への支援体制を充実

教育

【指 標】

- ・奈良県の医療に貢献する意思を持った学生の割合（医学科・看護学科）
- ・現役卒業生の医師・看護師国家試験合格率
- ・学生の授業評価（理解度）
- ・学生の教育環境への満足度
- ・学生対応への満足度 など

4 最善の医療に貢献する最先端の研究の実施

重点研究の推進

- ・重点研究領域における革新的で先験的な基礎・臨床研究等を推進

研究力向上のための体制強化と環境整備

- ・研究者の能力発揮を促進し、若手・女性研究者育成のためハード・ソフト両面の研究支援体制を強化

産学連携の推進

- ・国内外の大学・研究機関と連携し、先端的研究を推進
- ・産業界との連携を推進し、産学官連携組織を強化

研究公正とコンプライアンスの徹底

- ・研究の透明性と信頼性の確保、利益相反管理や学内審査の透明性を高め、責任ある研究活動を推進

臨床研究実施・支援体制の充実

- ・先進的で質の高い臨床研究を実施する体制を強化

5 県民の健康増進への貢献

県民の健康増進への貢献

- ・県民の健康増進に資する研究の実施、健康データに基づく行政・関係組織団体への情報提供、相談支援活動の推進
- ・県民の健康増進意識の醸成に寄与する情報提供を推進

研究

【指 標】

- ・PubMed対象の英文学術論文件数
- ・文部科学省科学研究費助成事業採択件数
- ・市町村や県が実施する健康増進事業への協力・連携件数 など

II. 安定した法人運営

法人運営

9 業務運営の改善及び効率化

働きやすい職場づくり

- ・多様な働き方に対応し、モチベーション向上、能力や成果を発揮できる環境を整備

法人運営を支える人材の確保と育成

- ・事務職員のキャリアパスを整備し各分野のエキスパート育成により大学・病院運営のプレーンとなる人材を確保

10 財務内容の改善

経営基盤の強化

- ・収入確保と経費抑制を図り持続可能な安定した経営基盤を確立

11 業務運営に関する自己点検・評価及び情報提供

業務運営に関する自己点検・評価及び情報公開・発信

- ・中期計画の進捗管理の実施、課題の把握・改善
- ・法人の運営状況等の積極的な情報公開、ホームページや報道発表等を通じた積極的な情報発信

学内で計画について共有し、全教職員が一丸となって取り組むため、計画の内容をまとめたハンドブックを配付するとともに説明会も開催いたします。これらを通し、計画の趣旨・内容を把握いただくとともに、第4期中期目標の達成に向けた取組の推進について、皆様のご理解と積極的なご参画をお願いいたします。

第4期中期目標・中期計画の詳細については、大学ホームページに掲載しています。

<https://www.naramed-u.ac.jp/university/gaiyo/kekaku-hyoka/gyomujoho2/gyomujoho2.html>

(大学ホームページ TOP > 大学概要 > 大学の計画と評価 > 業務に関する情報)

6 県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践

救急医療体制の強化

- ・重篤な救急患者を中心に救急患者の受入れ体制を充実・強化

ハイリスク児・ハイリスク妊婦受入体制の強化

- ・母体搬送コーディネーターによるハイリスク児・ハイリスク妊婦の受入搬送調整により県内の受入れ体制を維持

災害医療体制の強化

- ・県内医療機関との連携強化・機能分担を推進し、基幹災害拠点病院・災害拠点精神科病院としての取組を実施

感染症医療体制の強化

- ・感染症指定医療機関として求められる医療の提供、緊急時・平時の感染対策

7 県内基幹病院としての機能の充実

特定機能病院としての機能の充実

- ・特定機能病院としての機能・リソースを活かし高度で専門的な医療の提供、地域医療機関等との連携により医療水準を向上

安全で透明性が高い医療の提供

- ・医療安全体制のさらなる強化

感染制御体制の維持

- ・薬剤耐性の対策、抗菌薬の適正使用、院内感染対策等を継続し、感染制御体制を維持

患者満足の一層の向上

- ・患者ニーズの把握・職員の意識改善に努め、提供する医療の質を向上

病院運営の効率化・健全化

- ・病院のマネジメント機能強化、経営指標を用いた課題の把握・分析をし、収支バランスのとれた経営を推進

医療DXの推進

- ・デジタル技術を活用し、患者サービスの向上、医療提供体制を効率化

医療費適正化の推進と費用構造改革の徹底

- ・適正な薬剤費比率・診療材料費比率の維持等費用構造改革を徹底
- ・後発医薬品の使用促進

8 地域医療提供体制の強化

医師の散在・偏在の解消

- ・県費奨学生のキャリアパス形成を支援し、医師が不足している医療機関の医師確保を支援
- ・県費奨学生の離脱防止、従事期間終了後の県内定着を促進

地域医療を支える人材の育成

- ・熟練した技術と知識を有する人材の養成・キャリアアップ支援を推進

地域医療機関等との連携強化

- ・紹介・逆紹介の推進、新たな連携構築を進め機能分担を促進
- ・県内（特に中和医療圏）の在宅医療を担う医療機関を支援
- ・訪問看護ステーション等との連携を強化

【指 標】

- ・高度救命救急センターの救急受入件数
- ・附属病院のハイリスク児及びハイリスク妊婦受入率
- ・総手術件数に対する高度な手術実施率
- ・医療安全対策の提案数
- ・患者満足度調査における「不満・やや不満」の割合
- ・医療収支比率 など

診 療

12 その他の業務運営に関する重要項目

施設・設備の整備・活用

- ・長期的視点から施設の適切な管理・運用についての整備・改修計画を立案

危機管理等に関する体制強化

- ・災害・事故等発生時に適切・迅速に対応するための危機管理体制を強化
- ・新しい脅威に対応する情報インフラの維持管理・情報セキュリティ管理体制を強化

ガバナンス体制の充実

- ・コンプライアンスの徹底を図り、内部統制システムの整備・点検によりガバナンス体制を強化

【指 標】

- ・職員満足度
- ・第4期中期目標期間中の経常収支比率
- ・中期目標達成に向けた進捗管理における課題の把握及び改善 など

令和7年度 公立大学法人奈良県立医科大学予算

令和7年度は、新たに策定した第4期中期計画の初年度であり、中期目標の達成及び中期計画の遂行のため、引き続き必要な予算については県等からの支援を活用するとともに、収入確保や経費削減等を前提とした予算編成を行いました。

予算規模としては、附属病院収入の増、それに伴う診療経費の増、人勤等による人件費の増が見込まれるほか、畝傍山キャンパス開校に伴う経費増が見込まれる一方で、畝傍山キャンパス整備に係る収入と費用の減があったため、令和6年度の744.9億円と比較して、79億円減の665.9億円となりました。

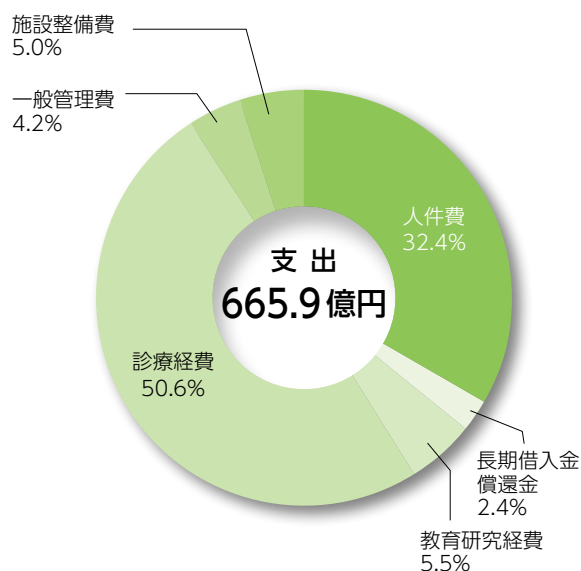
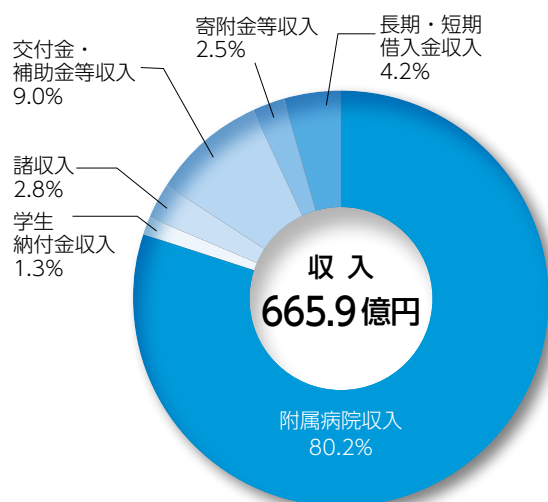
令和7年度は主に、研究力の向上に向けた研究施設設備・機能や支援体制の充実、医療DXの推進や次期総合医療情報システムの更新準備をはじめ、第4期中期計画にある「教育の質の向上」、「最善の医療に貢献する最先端の研究の実施」、「県内基幹病院として機能の充実」など、法人の将来を見据えた取組を行います。

法人の更なる発展のため、中期計画の円滑な遂行、効率的な法人経営の推進について、教職員の皆様には、それぞれの分野でのご協力を引き続きよろしくお願いします。

令和7年度予算の内容

収 入	項 目	予算額	構成比
	法人が自ら得た収入 (自己収入)	561.1億円	84.3%
	附属病院の診療報酬等 (附属病院収入)	534.2億円	80.2%
	学生が納付した収入 (授業料・入学金・入学検定料)	8.4億円	1.3%
	その他の収入 (諸収入)	18.5億円	2.8%
	他機関等からの支援 (交付金・補助金)	60.0億円	9.0%
	県からの支援 (運営費交付金等)	51.3億円	7.7%
	国等からの支援 (補助金収入)	8.7億円	1.3%
	職員が集めた収入 (受託研究・寄附金等収入)	16.7億円	2.5%
	借入金 (長期借入金等収入)	28.1億円	4.2%
	収 入 計	665.9億円	100.0%

支 出	項 目	予算額	構成比
	義務的に支払う必要のある経費 (人件費、償還金)	231.3億円	34.7%
	職員への給与の支払い (職員給与)	211.3億円	31.8%
	退職手当の支払い (退職手当)	4.2億円	0.6%
	借金の返済 (長期借入金償還金)	15.8億円	2.4%
	業務の運営に必要な経費 (業務費等)	401.5億円	60.3%
	大学での教育研究に 必要な経費(教育研究経費)	36.6億円	5.5%
	附属病院での診療に 必要な経費(診療経費)	336.9億円	50.6%
	法人の運営全般に 必要な経費(一般管理費)	28.0億円	4.2%
	施設整備や医療機器購入経費 (施設整備費)	33.1億円	5.0%
	支 出 計	665.9億円	100.0%



令和7年度予算の主要事業

新…新規事業

飛…飛躍基金活用事業

教 育

地域に貢献する医療人の県内定着、教育の質の向上、
学生への支援の推進

新 畝傍山キャンパス開校 363,357千円
畝傍山キャンパス管理経費

●教育の質の向上 33,764千円(R6 33,054千円)
良き医療人育成プログラムの実施、臨床マインドの育成、国
家試験対策等の充実 等

飛 国際水準の医療・研究を学ぶ機会の提供
47,938千円(R6 50,706千円)
リサーチ・クラークシップ国内外派遣、海外病院臨床実習、
模擬国連活動助成 等

●学生アメニティの向上 8,213千円(R6 8,297千円)
キャンパスミーティングを通じて学生からの要望を反映

飛 新キャンパス設備充実 13,900千円(R6 19,030千円)
クラブ活動に必要な設備・備品の購入

研 究

最善の医療に貢献する最先端の研究の実施、県民の健康
増進への貢献

●研究力の向上 76,300千円(R6 69,000千円)
研究力向上支援センターにおける研究の入口から出口までの
一貫支援

飛 大学共同研究施設設備・機能の充実
53,361千円(R6 44,000千円)
総研棟グランドデザインに基づき動物実験環境の改善、研究
用備品の整備

飛 研究力向上のための支援・助成事業
83,759千円(R6 34,572千円)
横断的研究助成、若手研究者支援、科研費・AMED申請支援、
APC助成の新設、英文校正助成・研究者海外留学助成の拡充 等

飛 臨床研究センターにおける研究支援体制の充実
30,269千円(R6 31,080千円)
臨床研究中核病院ネットワークの連携強化、特定臨床研究等
に対する助成 等

●県民健康増進支援センターの運営
16,860千円(R6 16,860千円)
市町村や県の健康増進事業に協力するとともに、予防医学や
健康づくりの適切な情報や研究成果を提供

診 療

県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践、県内基幹病院と
しての機能の充実、地域医療提供体制の強化

●県民を守る「最終ディフェンスライン」の実践
930,690千円(R6 914,490千円)
高度救命救急センターの運営、ドクターヘリの運航、DMAT
及びDPAT先遣隊の体制強化 等

●特定機能病院としての機能の充実
60,252千円(R6 41,478千円)
がんゲノム医療拠点病院機能の充実、脳卒中・心臓病等総合
支援センターの運営 等

●医療安全の推進 8,422千円(R6 3,790千円)
病院TQM大会の実施、患者安全確保のための衝撃緩和マット
の購入 等

●医療DXの推進 31,827千円(R6 31,680千円)
次期総合医療情報システムの更新準備、生成AIを活用した業
務自動化の実証実験

●地域医療を支える人材の育成 53,508千円(R6 52,622千円)
専門的なスキルを有する看護師の育成、実習生の受入・指導

法人運営

業務運営の改善及び効率化、施設・設備の整備・活用

●働き方改革の推進 8,233千円(R6 28,756千円)
職員意識調査の実施、システムを活用した業務改善効率化 等

●多様な人材を活用したタスクシフト
280,583千円(R6 205,629千円)
夜間看護補助者の配置、医師事務補助者の配置、医療技術職
の派遣職員確保

新 新A棟整備関連事業 1,396,987千円
新A棟基本設計、新A棟予定地上の建物除却設計 等

国際交流センターだより vol.19

ミシガン大学を訪問しました (4月1日～5日)

免疫学・教授 伊藤 利洋

本学と学術間連携を締結している米国ミシガン大学 (学生数 42,000 人) を訪問致しました。今回の訪問を通して、本学学生のリサーチクラークシップ (研究室配属) における受け入れの拡大、ミシガン大学病院における臨床実習が実現することになりました。さらにミシガン大学学長 Santa Ono 氏との面会が実現しました (写真1)。今後とも本学の国際交流推進に向けて、尽力してまいります。



(写真1) ミシガン大学学長面会



(写真2) ミシガン大学医学研究棟 (BSRB)

福建医科大学 (学術交流協定校) からの研究者 (2024年11月29日-2025年3月2日)

本学の学術交流協定校である、福建医科大学 (中国) の研究者が、整形外科での研修を行いました。受入れにご協力いただきました先生方ならびにスタッフの皆様、心より感謝申し上げます。本学から福建医科大学への派遣も可能です。ご興味のある方は、国際交流センターまでお問い合わせください。

福建医科大学 (Quanzhou First Hospital affiliated to Fujian Medical University)

黄灿阳 (Huang Canyang)

First of all, I would like to thank the leaders of the International Center of Nara Medical University for providing me with the opportunity to study in Japan. During the study period, I got to know the internationally renowned orthopedic professor Tanaka and the excellent spine team. After learning the spinal surgery under the leadership of Professor Shigematsu, they are artists on the operating table with such meticulous, precise, accurate and orderly cooperation in medical anesthesia.

At the same time, other professional groups are also very excellent, and I had the honor to visit the most famous orthopaedic combine TAA of Nara Medical University. Professor Tanaka is in a leading position in Asia and the world in this aspect. They are very serious and enthusiastic to answer our questions. The department of Orthopaedics every Tuesday teaching conference and ward rounds are of great help to improve the knowledge of our trainees, which is a kind of department management method worth learning.

During my study, I visited the new campus of Nara Medical University and witnessed the new development of Nara Medical University. I hope that the cooperation between Fujian Medical University and Nara Medical University can be promoted to a higher level. These three months are three months of clinical technology learning, three months of feeling the exchanges between the two university, and more importantly, three months of feeling the friendship between China and Japan.

Thank you again to all the faculty of Nara Medical University.



脊椎グループの先生方と



新キャンパスにて

令和6年度 第3回 若手研究者国際学会発表助成事業 助成者決定 (4月4日)

令和6年度 第3回若手研究者国際学会発表助成事業の助成者は、下記のとおり決定しました。この事業は、若手研究者の国際学会等での発表の機会を増大させ、国際的に活躍できる人材の育成を推進することにより本学における研究活動の一層の活性化を図るため、20万円を上限とし往復運賃相当額及び宿泊費相当額を助成しているものです。募集は年3回、次の募集も予定しておりますので、皆さまの積極的なご応募をお待ちしています。

所 属 (科 目)	職 名	氏 名
地域医療支援・教育学	講師	川崎 佐智子

海外リサーチ・クラークシップ成果報告：卒業生のその後

本学卒業生で、海外リサクラの1期生（平成28年度）の、未来基礎医学で在学中～卒後も研究に従事していた坂口義彦さん（筑波大学）が、筆頭著者として論文を発表しました。この論文が、2024年度の日本生理学会入澤宏・彩記念JPS優秀論文賞を受賞し、また2025年4月から開始の日本学術振興会のフェローシップ（DC1）にも採択されました。

坂口 義彦

- ・筑波大学 グローバル教育院 ヒューマニクス学位プログラム
- ・筑波大学 国際統合睡眠医科学研究機構
- ・筑波大学 医学医療系 バイオインフォマティクス研究室

*論文タイトル：Identification of three distinct cell populations for urate excretion in human kidneys

*Published：02 January 2024

このたび、上記の筆頭論文が、入澤記念優秀論文賞および細胞と分子生理 / 上皮膜研究グループ J.P.S. 優秀論文賞という、二つの生理学会の論文賞に選ばれました。出会いと幸運に恵まれたおかげで、多くの研究者に関心を持っていただける論文となったことを嬉しく思います。海外リサクラをきっかけに研究を始め、未来基礎医学の森英一朗先生・生体分子不均衡制御学共同研究講座の永森収志先生（現・東京慈恵会医科大学）のご指導のもと、論文をまとめることができました。また、共同筆頭著者である松林先生や Wiriyasermkul 先生をはじめとした、学内外の共著者の先生方には、貴重なフィードバックをいただきました。改めて、ご指導いただいた皆様に深く感謝申し上げます。今年度から、日本学術振興会 DC1 の支援を受け、「遺伝学と情報工学の融合アプローチによる睡眠の分子制御・生理的意義の解明」というテーマで研究を進めています。この受賞を励みに、今後も研究を進めてまいります。



森先生と



授賞式にて

医学部長 嶋 緑倫

リサーチクラークシップは本学独自の教育プログラムであり、研究マインドの醸成を目的として、国内外の大学や研究機関で実際の研究を学ぶ機会を提供しています。坂口義彦先生は、海外リサクラの第1期生で、リサクラ後も未来基礎医学教室で研究に励まれました。卒業後も研究を続けられ、昨年、ファーストオーサーとして発表された論文が日本生理学会において優秀論文として表彰されました。この素晴らしい成果を嬉しく思っています。今後の益々のご活躍を祈念しています。



生理学第二 教授 堀江 恭二

本学在学中、坂口さんが遺伝子発現の高度な情報解析に励まれている姿を拝見しておりましたが、その成果が高く評価されたことを、大変嬉しく思います。この分野は、学部学生を含む若い方々が無限の可能性を発揮できる領域であると常々感じております。その点で、今回の坂口さんの受賞は、本学の学生にとっても大きな励みとなり、将来への道標を示すものとなると思います。さらなるご活躍を心よりお祈り申し上げます。



医学科長（免疫学・教授）

伊藤 利洋

2016年度から新たに医学科2年時に海外を含む研究室配属（リサーチクラークシップ）が導入され、坂口さんの学年がリサーチクラークシップを体験した初めての学年となります。医学生として早期に医学研究の重要性を認識し、奈良医大の卒業生として医学研究の世界で活躍する坂口さんの姿は、大変嬉しく頼もしく思います。今後の更なる飛躍と後輩たちにも良い刺激となることを期待しております。



未来基礎医学 准教授

森 英一朗

2017年4月、海外リサクラから戻ってきたばかりの坂口君が「海外リサクラに行って研究が面白くなりました」と目を輝かせてやってきました。その後、部活と研究活動を両立させながら、在学中に原著論文5報（筆頭1報・共著4報）と卒業後に筆頭論文1報を発表しました。さらに、臨床研修中には症例報告を筆頭著者としてまとめました。是非、坂口先輩の背中を目標にする在校生が一人でも多く出てくることを期待しております。



先端医学研究支援機構だより

研究力向上支援センターからのお知らせ

重点研究進捗状況報告会を開催しました

本学では、重点研究2016推進計画に定める重点研究課題として、「地域に根差し地域と歩む研究」「日本を世界を牽引する研究」「良き医療人を育てる研究」を推進しています。

このたび、12月24日、1月20日、2月27日、3月25日に次の研究の進捗状況報告会を開催しました。

●地域に根差し地域と歩む研究

「術後機能障害の発生とその予防的介入に関する研究」

麻酔科学

教授

川口 昌彦

「温度・光曝露が健康に及ぼす影響に関する前向きコホート研究」

疫学・予防医学

教授

佐伯 圭吾

「奈良県における循環器医療の質の向上と循環器病地包括ケア構築に資する実態調査」

循環器内科学

助教

上田 友哉

「MBT (Medicine-Based Town) 2024年度の主要活動報告」

MBT 研究所

コーディネーター

塩山 忠夫

●日本を世界を牽引する研究

「IVR 研究センターにおける研究進捗状況と新規研究課題」

放射線診断・IVR 学

教授

田中 利洋

「血栓止血の制御に関する研究」

血栓止血先端医学

准教授

辰巳 公平

●良き医療人を育てる研究

「良き医療人を育てる研究」

教育開発センター

教育教授

若月 幸平



麻酔科学
川口昌彦 教授



疫学・予防医学
佐伯圭吾 教授



循環器内科学
上田友哉 助教



MBT 研究所
塩山忠夫
コーディネーター



放射線診断・IVR 学
田中利洋 教授



血栓止血先端医学
辰巳公平 准教授



教育開発センター
若月幸平 教育教授

研究力向上支援センターからのお知らせ

若きトップサイエンティストの挑戦 (リサーチストーリー) vol.15 を掲載しています

(本学ホームページ) > 研究力向上支援センター > 若きトップサイエンティストの挑戦

当シリーズでは本学で国際的に活躍されている若手の研究者の方々にお話を伺い、学内を始め広く学外にも紹介しています。Vol.15 では消化器内科学 講師 北川洸先生にお話を伺いました。

北川先生の論文「Efficacy of short-bending sphincterotome for difficult biliary cannulation in double-balloon enteroscopy-assisted ERCP.」【Endoscopy】: [ダブルバルーン内視鏡を用いた内視鏡的逆行性胆管膵管造影 (ERCP) における胆管挿管困難例のための短湾曲型 sphincterotome (乳頭括約筋切開用カテーテル) の有用性] について、先生の研究活動や論文の概要、研究を進めてこられた動機、プロセス、今後の抱負などについてお話を伺いました。

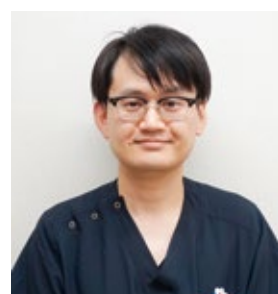
これらの内容は、研究力向上支援センターのホームページに掲載しておりますので是非ご覧ください。

研究力向上支援センターでは、この他様々な情報を発信しております。今後もメルマガ「研究力向上支援センターニュース」や研究力向上支援センターの学内ホームページでご紹介をしていきますのでご期待ください。

記事ホームページはこちらの QR コードからご覧になれます。

若きトップサイエンティストの挑戦 (リサーチストーリー)

URL: <https://www.naramed-u.ac.jp/university/kanrenshisetsu/crcd/interviewwakakitopbox.html>



消化器内科学 講師 北川洸先生



医学研究支援センターからのお知らせ

第2回 RI セミナー報告

3月14日16～17時、基礎医学棟5階小講義室にて、「第2回RIセミナー」が開催されました。このセミナーは、RI（ラジオアイソトープ）に関する研究を紹介することで、本学RI実験施設を活発に利用していただくことを目的としています。今回は、東北大学災害科学国際研究所の鈴木正敏特任講師をお招きし、「福島第一原発事故の教訓から ～放射線・RI利用の安全管理にむけて～」というタイトルで講演をしていただきました。鈴木先生は、2011年に生じた福島の原発事故で拡散した放射性物質の影響を調べるため、避難勧告を受けた地域で飼育されていたウシと、野生のニホンザルのサンプリングを数年にわたり実施され、各臓器における放射性物質の蓄積量より被ばく線量を推定し、生物影響評価を行いました。これらの臓器では、我々が日常生活で被ばくする量（年間2 mSv（ミリシーベルト）程度）よりも有意に高い被ばく線量が推定され、活性酸素量の増加やSOD（Superoxide dismutase）活性の低下が認められました。低線量域の放射線が、どの程度の健康リスクを有しているのかについては、社会的に関心の高い問題ですが、いまだに不明なところが多いです。今回紹介された福島でのフィールドワークでは、野生動物のサンプリングなど苦労の多い研究であることが鈴木先生のお話で分かりました。このような研究活動の中でエビデンスが積み重ねられ、低線量域の生物影響が少しずつ解明されているということを改めて認識しました。



医学研究支援センターからのお知らせ

医学研究支援センター 准教授 金子 涼輔

4月1日より先端医学研究支援機構・医学研究支援センター・組換えDNA実験施設に着任しました金子涼輔と申します。私はこれまで生理学研究所、群馬大学、オランダ・Erasmus MC、大阪大学などにて、遺伝子組換え生物（大腸菌、ウイルス、マウス等）を用いて脳神経系の発生やその破綻による疾患発症メカニズムを研究してきました。また、動物実験施設やイメージングセンターの管理・運営・実験受託等のサポート業務を通じて多くを学ばせていただきました。

今後は法令遵守を最優先に、組換えDNA実験を行われる方々、組換えDNA実験施設を利用される方々を全力でサポートさせていただきます。ご意見ご要望など皆様の声を是非お聞かせくだされば幸いです。ご指導ご鞭撻の程、何卒宜しくお願い申し上げます。



先端医学研究支援機構医学研究支援センター組換えDNA実験施設・杉浦重樹教育教授の退職記念講演会が開催されました

3月6日、今年度をもって定年退職される杉浦重樹先生の退職記念講演会が開催されました。杉浦先生には「奈良医大における研究環境と研究支援体制の変遷」という題目でご講演いただきました。

杉浦先生は現代の医学生命科学研究に欠くことができない組換えDNA実験を、法令にのっとり適切に運営するために、組換えDNA実験施設管理者として、2000年のご着任以来、本学の研究環境を支えてくれました。また、本学の研究者の教育にも多大な貢献をされました。



講演終了後には、先生に感謝の気持ちを伝え、花束や記念品をお渡しする方も多くいらっしゃいました。先生との思い出を懐かしむ様子も見られました。杉浦先生、長年にわたり、ご指導いただき、誠にありがとうございました！

畝傍山キャンパスに新しい図書館が開館しました

4月1日、附属図書館は四条キャンパスから畝傍山キャンパスに移転し、新たに開館しました。四条キャンパスの旧図書館は、昭和54年に開館してから46年という長い期間、多くの方にご利用いただきました。畝傍山キャンパスの新図書館も、皆様にとって新たな学びの場となるよう図書館職員皆で精一杯努めてまいりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

図書館が入る講堂図書棟は、畝傍山キャンパスの中でも畝傍山を真正面に望める立地です。四季折々の移り変わる景色を眺めながら、学習、読書、文献調査など各々でゆったりとお過ごしいただけます。図書館は1階と2階の2フロアに分かれており、1階はグループ学習室や視聴覚ホール、PCなどがあり多くの人が行き交う「動」の空間、2階は区切られた席が多く設置され、集中的に学習できる「静」の空間です。椅子の種類や色にもこだわった配置になっていますので、目的や気分に合わせて、お好みの場所をお使いください。各座席には照明とコンセントが設置されています。今までの図書館をご存じの方でしたら、一新された図書館の環境にかなり驚かれることと思います。

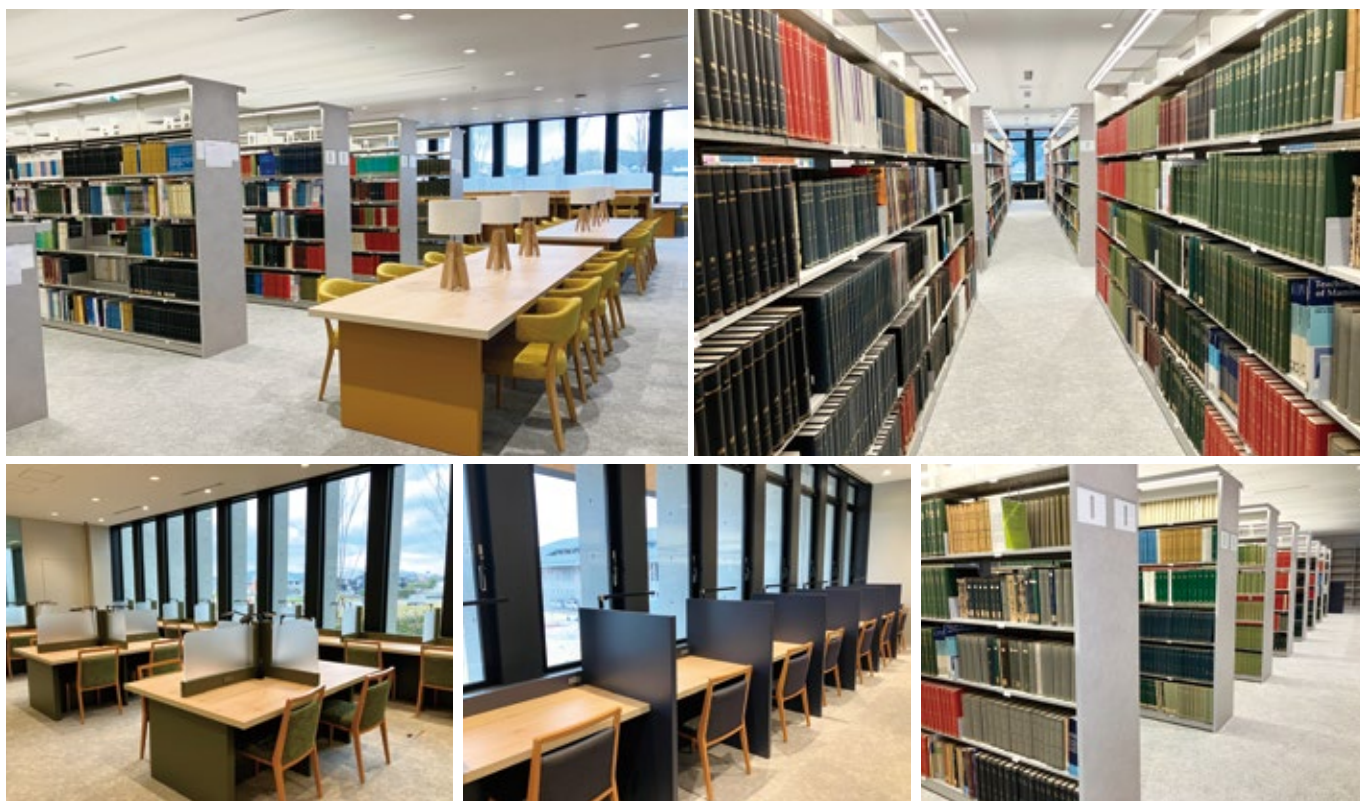
本棚は、隣の列との間隔を広く取っており、棚の最上段に照明が組み込まれ、明るく見やすい設計になっています。今まで、書庫が主な資料保管場所となっていたましたが、新しい図書館では多くの本を表に出し、閲覧室の本棚に並べていますので、図書館資料全体が見やすく、手に取りやすい仕様です。

移転したことによって場所は大きく変わりますが、提供するサービスはこれまで四条キャンパスで行ってきたものと変わりません。入館は学生証または職員証でしていただけます。貸出

手続きは自動貸出機にて、5冊2週間まで本をお借りいただけます。グループ学習室や視聴覚ホールも予約制でご利用いただけます。なお、四条キャンパスの方には、図書館職員が文献を届けるサービスなどを新たに開始しています。申込方法など詳細については一斉メールや図書館ホームページでの案内をご確認ください。また、返却ポストは四条キャンパス図書館と畝傍山キャンパス図書館どちらにも入口に設置していますので、本の返却はそれらをご利用ください。

電子ジャーナルについては、キャンパスが分かれても奈良医大内であれば利用できる大変便利なツールであり、今後も充実させたいと考えています。ただ、一部利用者による短時間での大量ダウンロードが問題となり、提供元からアクセス一時停止の措置を取られるという事案が今年1月から3月の間に複数回発生しています。同一利用者が特定の雑誌1冊に該当する量を、短時間で連続的にダウンロードすることは禁止されています。今後このようなアクセスが続きますと、奈良医大全体での利用停止措置となる場合があります。ご利用の皆様には、適切な利用をお願いいたします。四条キャンパス、畝傍山キャンパスどちらの方にとっても、電子ジャーナルは学習・研究・臨床に欠かせない大事なツールです。

キャンパス移転し環境が大きく変わった図書館、皆様にはぜひ一度お越しいただきたいです。本学の学生や教職員、附属病院職員であればどなたでもご利用いただけます。新しい閲覧席、新しい部屋、新しい環境を最初に利用できるのは今奈良医大にいらっしゃる皆様です。この特別な瞬間にぜひお越しください。



看護部の紹介

認定看護管理者紹介 ～認定看護管理者（2024年度第28回認定審査合格）～

看護部 看護副部長 南口 淳子

認定看護管理者とは公益社団法人日本看護協会が認定する資格です。1987年4月厚生省「看護制度検討会報告書」において「複雑化する病棟管理を円滑に行っていくため、教育、訓練を受けたマネージメントのできる能力をもつ中間管理職を早急に育成する必要がある」とされたことから、1993年にファーストレベル教育が、1994年にセカンドレベル教育が開始されました。1998年5月には認定看護管理者制度が発足し、1998年からサードレベル教育が開始、1999年から認定試験が始まっています。

認定審査に合格した者は、管理者として優れた資質を持ち、創造的に組織を発展させることができる能力を有するとされています。私も認定看護管理者として研鑽を重ね、力を尽くしていきたいと考えています。



看護部 看護副部長 今別府 真奈巳

この度、認定看護管理者教育課程、ファーストレベル 105 時間、セカンドレベル 180 時間 サードレベル 180 時間を修了し、認定審査において認定看護管理者として認定されました。

日本看護協会において認定看護管理者は『多様なヘルスケアニーズを持つ個人、家族及び地域住民に対して、質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより、保健医療福祉に貢献する。』と謳われています。

少子高齢多死社会と目まぐるしく変化する社会の状況をとらえ、看護師がプロフェッショナルとして自律し、多職種と協働しながら、人々の幸せのために貢献していけるように看護管理者としての役割を果たしていきたいと思っています。今回、多くの事を学ぶ機会を与えていただき、ご協力いただきました皆様に感謝申し上げます。



特定看護師の RRT への参画

看護師特定行為支援センター 師長 小川 哲平

RRS : Rapid Response system (迅速対応システム) は病院内の急変のリスクがある患者を早期に発見し、適切な対応を行うことで、重篤な状態への進行を防ぐことを目的としています。RRS は予期せぬ院内心停止や院内死亡といった不幸な転帰を減少することを目指したシステムだけでなく、終末期患者の医療の質の向上や、医療過誤の減少においても有用である可能性が示唆されています。当院においても 10 月より院内での患者の急変を早期に発見し、迅速に対応するための RRT (Rapid Response Team) : 院内迅速対応チームが発足しました。チームは集中治療室の医師と看護師で構成されており、特定看護師が参画しています。RRT の特定看護師の役割は、チーム医療を円滑に進めること、そして専門性の高いフィジカルアセスメント能力や病態判断能力を活かし、診療の補助や他職種との情報共有を円滑にすることで早期治療へ繋ぐことだと考えています。院内急変リスクの高い患者を早期に発見し、適切な治療につなげ重篤な状態への進行を回避することができるよう、今後も活動していきたいと思っています。特定看護師の RRT への参画により、専門性を発揮し、チーム医療の中で重要な役割を発揮し、患者にとってタイムリーかつ安全で質の高い医療の提供につなげていくことができるようにこれからも努力していきたいと思っています。



1. 難病克服キャンペーン

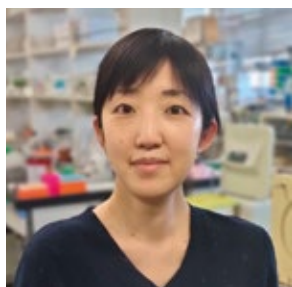
2021年5月以来、希少な疾患ゆえに社会から孤立しがちな難病患者の苦境を多くの人に理解いただき、難病研究者や治療に携わる人々を支援する「MBT 難病克服キャンペーン」を続けてきました。これは、1) 協賛企業の募集、2) WEBセミナーの実施、3) 映画祭の開催を中心とする取り組みです。これに関連する最近の動きをご紹介します。

(1) 難病克服支援WEBセミナー

2024年8月31日、500名を超える申込みのもと、第7回難病克服支援WEBセミナーが開催されました。同セミナーでは、最初にパーキンソン病の世界的権威である順天堂大学医学部神経学講座脳神経内科の服部信孝教授に「パーキンソン病の原因を追って～新規治療法の開発に向けて～」の演題で講演をしていただきました。続いて希少難病 GNE ミオパチーの第一線の研究医である国立精神・神経医療研究センター神経研究所疾病研究第一部の吉岡和香子先生に「希少疾患治療の新たな希望:GNE ミオパチー治療法開発の歩み」の演題で講演をしていただきました。



服部信孝教授



吉岡和香子先生

2025年3月21日、難病克服キャンペーンの一環で、第8回 MBT 難病克服 WEB セミナーを対面での講演と ALS 患者の闘病ドキュメンタリー映画である「NO LIMIT, YOUR LIFE」の上映会に変えて、開催しました。さらに本映画の主演で ALS 患者の武藤将胤氏と映画を撮った監督の毛利哲也氏を特別ゲストにお招きし、ステージでご挨拶をいただきました。

(2) MBT みんなで守るいのちの映画祭

MBT 映画祭は、2022年1月8日に橿原文化会館で第1回を「MBT 映画祭 2021」として開催して以来、2023年1月14日に第2回、2024年1月13日に第3回を開催しました。この間、野田聖子衆議院議員、吉永小百合氏にもご参加いただきました。2025年1月18日には、名称を「MBT みんなで守るいのちの映画祭」に変更し、日経ホールで400人近い参加者を得て開催しました。俳優の渡辺謙氏にもご参加いただき、盛大な映画祭となりました。



講演する野田聖子衆議院議員



吉永小百合氏のスピーチ



渡辺謙氏のスピーチ

(3) 上映会

MBT 映画祭の優秀作品や入賞作品を全国各地域で上映することにより、キャンペーンの輪の拡大を図っております。上映会はこれまで6回開催されており、最近のものとしては2024年10月12日にけいはんなプラザメインホールで開催されました。また、大阪・関西万博のサテライト万博として開催されるけいはんな万博 2025の一環としてウェルビーイングフェスティバルが2025年6月13日～15日にけいはんなプラザ等で開催されますが、MBT 映画祭上映会をこの中で開催する予定になっております。

2. 経団連の地域協創アクションプログラム勉強会

経団連は、地域企業・大学・自治体・団体など多様な主体の活動を後押しし、地域協創の取り組みを拡大すべく、経団連と連携先が取り組む10項目からなる「地域協創アクションプログラム」を実施しています。本学とMBTコンソーシアムは、その1つの「医療・育児・介護・移動など健やかで快適な暮らしの基盤を協創する」のプログラムの取組主体者に選定され活動を行っているところです。その活動の一環で、2月4日、経団連企業やアクションプログラム参加の約60名が参加するWEB勉強会が開催されました。この勉強会で細井理事長は「医学知識を活かしたMBTコンソーシアム活動紹介とお誘い」の演題で講演を行いました。初めてMBTの活動内容を見聞きする企業もあり、MBTの取り組みに興味を持った企業から活発な質問が寄せられました。



講演する細井理事長

プログラム医療機器 (SaMD) の導入と運用体制の整備に向けて

戦略的医療情報連携推進講座・教授／医療情報部・部長 玉本 哲郎

近年、AI やクラウド技術を活用したプログラム医療機器 (Software as a Medical Device : SaMD) の開発が急速に進展し、医療の質の向上や業務効率化に対する期待が高まっています。プログラム医療機器とは、専用の医療機器に搭載されるソフトウェアや、単独で診断・治療支援を行うソフトウェアを指し、たとえば AI 画像診断支援システムや患者状態のモニタリングアプリケーションなどが該当します。

本学附属病院においても、こうした医療機器の導入が徐々に進められており、安全かつ効果的な導入支援体制の構築が喫緊の課題となっています。本稿ではプログラム医療機器 (SaMD) の導入と運用体制の整備に向けての必要な対応について述べたいと思います。

導入準備段階における要件定義と法令対応

SaMD を導入するにあたっては、まずその導入目的を明確にし、臨床ニーズに即していることを確認する必要があります。併せて、薬機法 (医薬品医療機器等法) や厚生労働省が示す医療機器の品質・安全性ガイドラインへの対応も不可欠です。具体的には、当該製品が医療機器としての認証・承認を取得しているか、また ISO13485 などの品質マネジメント規格に準拠しているかどうかを確認します。

ベンダー選定と製品評価

導入に際しては、医療機関に最適な製品を選定することが重要です。評価にあたっては、ベンダーが医療機器製造販売業の許可を取得していること、導入後の十分なサポート体制を有していることを確認します。さらに、候補製品を用いた試行導入を行い、臨床現場における有効性や実運用への適合性を検証します。

リスクマネジメントと安全性評価

SaMD を安全に運用するためには、導入前からのリスクマネジメントが不可欠です。ISO14971 (医療機器のリスクマネジメント規格) に基づき、考えうるリスクを洗い出し、それに対する低減策を策定します。たとえば、誤操作による影響や、システム障害時の対応策などを具体的に整理し、事前に備える必要があります。

院内運用体制の整備

導入後は、院内での明確な管理体制が求められます。運用ルールの策定、ユーザー管理、アクセス制御を徹底し、万が一のインシデントに備えた対応マニュアルも整備します。また、職員向けのトレーニングを実施し、操作方法やトラブル時の対応手順を周知徹底することが、安全な運用のために不可欠です。

個人情報保護とセキュリティ対策

クラウド型 SaMD では、特に個人情報保護の観点が重要です。厚生労働省の「医療情報システムの安全管理に関するガイドライン」に基づき、データの暗号化、アクセス制御、ログ管理を適切に行うとともに、ISO27001 などの情報セキュリティ規格に準拠したクラウドサービスの利用が推奨されます。

導入後の継続的評価と改善

導入後も臨床的効果や安全性、有効性について継続的に評価を行うことが重要です。評価結果に基づき必要な改善を実施し、診療支援の質を一層高めていきます。

情報部門としても、これらの導入支援プロセスを標準化・体系化することは喫緊の課題であり、2025 年度には具体的な取り組みを進める予定です。これにより、患者さんに安全で質の高い医療サービスを提供するとともに、医療従事者の業務負担の軽減にもつながると考えています。今後も、本学は医療と情報技術の融合を積極的に推進し、医療 DX (デジタルトランスフォーメーション) の実現に向けて貢献してまいります。

なお、プログラム医療機器に関する詳細な情報は、厚生労働省のウェブサイトにて公開されています¹⁾。

同サイトでは、プログラム医療機器と汎用 AI との違い (図 1) のほか、「医療機器プログラムの該当性」や「医療機器プログラム相談窓口」についても紹介されていますので、導入を検討されているスタッフの方々には是非とも参考にしてください。

〈参考文献〉

1) 医療機器プログラムについて https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000179749_00004.html

医療機器プログラムと汎用 AI の違いについて

■ 医療機器プログラム

- ・医療機器としての目的性 (疾病の診断、治療等に寄与するなど) を有しており、かつ、意図したとおりに機能しない場合に患者 (又は使用者) の生命及び健康に影響を与えるおそれがあるプログラム (ソフトウェア機能)。
- ・提供するためには、医薬品医療機器等法に基づく製造販売承認や認証を事前に取得することが必要。

■ その他 (汎用 AI など) のプログラム

- ・疾病の診断や予防、治療の目的を標榜せずに、提供されるプログラム。医療用途以外の一般的な目的で提供される、汎用 AI などが該当。

▶ 疾病の診断や予防、治療に用いる 医療機器プログラムは、医療機器として、有効性や安全性が確認された上で提供されている。

▶ 一方、汎用 AI などのその他のプログラムは 医療機器として承認・認証されたものではなく、疾病の診断や予防、治療の目的を標榜して提供することはできない。また、健康状態や疾病に関する質問をした場合の回答内容を含めたその性能は、医薬品医療機器等法に基づき、その妥当性が確認されたものではない。

図 1. プログラム医療機器と汎用 AI との違い [文献 1) を改変]

10.24

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が奈良県・Nara Challenging Startup 支援事業に認定されました

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」は、奈良県で新たな事業にチャレンジする「Nara Challenging Startup」(ナラチャレ)の支援事業企業に認定されました。ナラチャレは、奈良県内スタートアップ事業のPR活動や成長をサポートする事業です。奈良県発のスタートアップとして、さらなる飛躍を目指します。



1.20

2巡目医学教育分野別評価の認定を受けました

本学は、「医学教育分野別評価基準日本語版 Ver.2.34」に基づき、日本医学教育評価機構(JACME)による2巡目の評価(令和6年1月)を受審し、教育プログラムが国際基準に適合していることが認定されました。

引き続き、評価報告書において、改善を示唆・助言いただいた事項について、改善に取り組んでまいります。認定期間 2025年2月1日～2032年1月31日

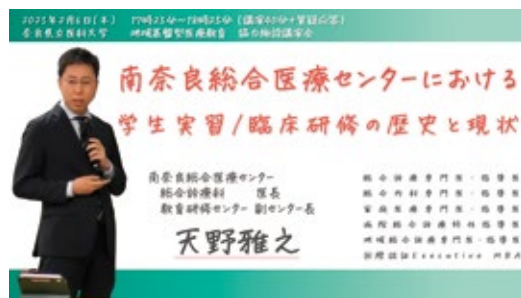


2.6

地域基盤型医療教育協力施設講演会を開催しました

令和6年度、教育開発センターでは、FD (Faculty Development) 活動の一環として、年間12回の研修会や講演会を開催しました。2月6日には、「令和6年度 奈良県立医科大学 地域基盤型医療教育協力施設講演会」を開催し、「地域基盤型医療教育について」をテーマに、教育開発センター副センター長・教育教授の若月幸平が「臨床実習の現状について」講演を行いました。また、特別講演では、南奈良総合医療センター 総合診療科医長・教育研修センター副センター長の天野雅之先生をお招きし、「南奈良総合医療センターにおける学生実習・臨床研修の歴史と現状」についてご講演いただきました。参加者の皆様は、メモを取りながら熱心に聴講されていました。

講演会の最後には、会場およびオンラインで参加された先生方とともに意見交換会を行いました。学生の実習受け入れに関する課題や、各施設での取り組みについて活発な意見が交わされ、有意義な交流の場となりました。



2.13

新キャンパス(畝傍山キャンパス)の内覧会を行いました

2月13日、新キャンパス(畝傍山キャンパス)において山下奈良県知事・中野奈良県議会議長など県関係者をお招きし、竣工内覧会を開催しました。細井理事長・学長が「新キャンパスの開設は、教育・研究・医療の更なる充実を図るための大きな一歩。この新たな環境のもと、より高度な医療人材の育成に努め、県民の皆様の健康と福祉の向上に貢献したい。」と述べられ、山下知事より、「国の始まりの地、歴史的な由緒ある場所に素晴らしいキャンパスができた。すばらしい医療人材が巣立ってほしい。」とあいさつがありました。その後、テープカットをして完成を祝いました。



挨拶を行う、細井裕司理事長・学長

2.19 TQM 大会を対面開催しました

附属病院において、TQM (Total Quality Management (総合的質管理)) 活動の取り組みを推進しています。TQM 活動は、職員自らが日頃感じている課題や問題点について、主体的に課題解決に取り組むことで、職員の改善意識の向上を図ることを目的としています。さらに活動成果を病院の業務等に生かすこと、そして医療・サービスの質を継続的に向上させていくことも目的としています。

今年度で 10 回目となる本大会に、今年度より活動を開始した 13 グループと、TQM 活動初年度～令和 5 年度間に TQM 活動発表を行い、現在も活動を継続している 4 グループが参加し、趣向を凝らした活動内容や成果を発表しました。今年度より活動を開

始したグループにおいては、医療安全・教育質向上プロジェクトの委員が審査を行い、表彰式も行いました。

日々の業務の中から生まれた問題点とそれに対する課題・改善行動は、各グループの特色が見え、多職種にも参考となる内容のものが多数ありました。今後、継続して取り組むことを期待しています。



TQM大会の様子



表彰式 第1位 「特定看護師となかまたち」と吉川病院長

■参加グループ一覧【活動内容をお知りになりたい場合は、医療の質・安全管理センターまでお問合せください。】

グループ名	活動テーマ	所属	備考
多職種連携Boys'	男子更衣室 KAIZEN プロジェクト ～大切な男子更衣室の環境改善を目指して～	看護部放射線治療室・化学療法室・ 緩和ケアセンター、B棟7階、C棟7階、 C棟8階、医療技術センター	
ICU生活を伝え隊	患者と家族を繋ぐICUダイアリー ～檜原の中心から愛を込めて～	C棟3階 麻酔科	
2024年度 中央手術部リーダー会	手術室忘れ物ゼロ・カルテログアウト運動	中央手術部	
ピッチピッチ内視鏡部	おひさしブリーフィングで安全をゲッツ	中央内視鏡部、医療技術センター、 消化器内科	令和6年度 TQM大会 3位
インシデント防ぎ隊	インシデント部内報告後の追跡調査	薬剤部	
思いやるって素敵やん	「ありがとう」思いやりの気持ちから広げる コミュニケーション ～多職種連携強化に繋げるために～	C棟3階 麻酔科、医療技術センター	
精神科！ そんなの関係ねえ！！	患者さんの急変を見逃すな ～多職種で考え、伝え合い、もしもに備える～	D棟3階、D棟2階、精神医療センター、 医療技術センター	令和6年度 TQM大会 2位
C8病棟ー リハビリ連携チーム	入院中のADL低下を防ぐー ー自宅退院患者増加を目指してー	医療技術センター、C棟8階	令和6年度 TQM大会 院長賞
医療技術センター リハビリ2係	ミツパチなんて呼ばせない2024 ～ハルンバックの正しい取り扱いを目指して～	医療技術センター、感染症内科、 感染管理室	
手指衛生戦隊 クリーンレンジャー	中央手術部から院内感染予防！！	麻酔科、感染管理室、看護部中央手術部	
特定看護師と その仲間たち	頑張ってます！特定看護師☆	C棟3階、麻酔科、循環器内科、 胸部・心臓血管外科	令和6年度 TQM大会 1位
縁の下の力持ち	C8病棟 ONE EAM ～ADLを低下させない病棟を目指して～	C棟8階、医療技術センター、栄養管理部	
PICS撲滅委員会	I see you from ICU. そして自宅に帰るまで。	医療技術センター、C棟3階	令和6年度 TQM大会 プロジェクトリーダー賞
輸血の戦士	活動は続くよどこまでも	輸血部	*継続グループ
TEAM STROKE	あなたは鳴らせますか！？脳卒中アラート	B棟5階・SCU、脳神経外科、脳神経内科	*継続グループ
バースセンター 結愛	周産期NOW 妊産褥婦とその家族の笑顔ために ～私たちはいつでもあなたのそばにいます～	E棟5階、バースセンター	*継続グループ
笑顔を君に届け隊	「エビデンスとコストに着目した業務環境改善」 あれから約2年がたちました	E棟4階、医療技術センター、感染管理室	*継続グループ

2.3
2.7

医学看護学合同教育科目「奈良学」を開講しました

奈良学は、奈良県の文化、歴史、自然などを通じて「奈良」についての理解を深めるとともに、県の医療状況について学び、奈良の医療に対する意識を涵養することを目的に開講しています。また、本科目は、医師・看護師の多職種連携の基盤形成を図ることも目的に医学科1年生と看護学科1年生の合同講義として開講しています。

令和6年度は、2月3日(月)～2月7日(金)の5日間、集中講義として実施しました。

■ 奈良学の開始にあたって

細井学長から、本学の過去・現在・未来と題して、講義をしていただきました。奈良学は、本学の学生が自己の将来を有意義なものにするために必要な材料を提供すること、本学の姿を知って、本学の学生である誇りを持つようになることを目的として開講していると始めに話されました。ご自身の業績に触れられながら、本学の独創的な取組のひとつであるMBTについて講義し、新キャンパスを核とした新たな街づくりの構想を説明されました。最後に、学長が学生へ挑戦する気持ちを常に持ち続けるよう激励のことばを贈られました。

■ 奈良の文化・歴史・自然学習

奈良の文化・歴史・自然について、座学で学んだ後、医学科と看護学科を混じえた約8名ずつのグループに分かれ学生自身でフィールドワークの計画を立て、県内7か所で自然散策を行いました。

《今井町の歴史(座学)》

今井町並み保存会の中西会長をお招きし、本学の近隣に位置する今井町の歴史について講義をしていただきました。

講義では、今井町の起こりから重要伝統的建造物群保存地区の指定を受け、現在に至るまでの歴史を説明されました。最近では映画のロケ地としても有名で、「聖地巡礼」として今井町パンフレットでも注目を集めています。学生からは、今井町の歴史について深く考えたことがなかったが、講義を受けて今井町がより身近に感じられたという意見が多数ありました。



《深イ奈良の歴史&文化(座学)》

奈良まほろばソムリエの会の鉄田専務理事をお招きし、奈良県の歴史と文化について講義をしていただきました。

講義では、奈良県の地域性から奈良盆地北部、奈良盆地南部、大和高原と吉野路の4つのエリアに分けることができることの説明があり、各エリアの特色や観光地等を紹介していただきました。「奈良にうまいもんがあるのか」という論争もご紹介いただき、特にグルメの話は興味深かったようです。県外出身者も多いことから、奈良について幅広く、楽しく知ることができたようでした。

《奈良県の地理・気候・自然災害(座学)》

気象庁 奈良地方気象台の瀧澤様をお招きし、奈良県の地理や気候、自然災害について講義をしていただきました。

奈良県の地理に詳しくない学生にもわかりやすく、市町村の位置関係や奈良県の自然災害、災害が起きた時の対処法について、クイズを交えて講義されました。学生の感想には、奈良県の大規模な病院の一部が、災害の危険性がある地域に存在することを初めて知ったとの声があり、当該病院が被害を受けた際の対応について考えるきっかけになったようです。

《フィールドワーク》

フィールドワークは、奈良市東部、奈良市西部、大和郡山市、斑鳩町、桜井市、明日香村及び吉野町の7コースに分かれ、グループごとに作成した計画書に沿って行いました。学生の感想では、直接、奈良の寺社を訪れることで、奈良の魅力を再発見した、学科を問わず、今まで話をすることがなかった学生と仲良くなった等が多数ありました。

また、フィールドワーク終了後、見学地ごとに写真、解説、見どころ及び豆知識などを、グループ内で報告書にまとめ、理解が深まったようです。小雪が舞うなかでの散策となりましたが、これもまた冬の奈良を感じることができたのではないのでしょうか。



興福寺



法華寺

■ 奈良の医療についての学習

3日間を通して、奈良の医療について学びました。

初日は、グループごとに見学先の病院について事前学習した後、県内13施設で病院見学を行いました。2日目は、奈良県の医療について座学で学んだ後、奈良県の医療における課題及び解決策をグループディスカッションし、発表資料を作成しました。

最終日は、前日に作成した資料を用いて、奈良県の医療に関する発表会を6つの会場に分かれて行い、各会場から選ばれた最も優秀なグループ1組がシンポジウムで発表しました。

《病院見学実習》

奈良県内の13病院に分かれ、病院見学を実施しました。地域医療の現状等を踏まえて、病院の概要、立場などをご紹介いただきました。また、病院ごとに、9テーマ(地域医療、在宅医療、へき地医療など)が割り振られ、グループワーク及び発表会に向けて、見学先の医師や看護師、メディカルスタッフのお話を熱心に聞き、活発な質疑応答が行われました。

1年生の授業内では普段見ることのできない、外来、検査室手術室及びドクターヘリなどを見学させていただき、初めて見る病院の設備、機器に直接触れる体験実習を行い、興奮している学生も多数いました。学生は、実際に見学させていただくことで、将来、医療人となることを実感し、医療について学ぶモチベーションが上がったようでした。



見学先：済生会奈良病院



見学先：奈良医療センター

《奈良県の医療（座学）》

奈良県医療政策局の通山局長から奈良県の医療について講義をしていただきました。

国の動向を踏まえつつ、県内の地域性を考慮した医療施策を展開していることを、現状や現在の取組状況、今後の方針を交えて説明されました。学生は、これまで学習した講義内容やフィールドワーク、病院見学がこの講義と結びつき、奈良県の医療について学びを深めることができたようでした。

《奈良県の医療と病院に関する発表会の資料作成》

病院見学実習ごとに設定されたテーマに沿って、奈良県の医療における課題の明確化、優先順位の決定と解決策の検討を行いました。



KJ法による課題の明確化

課題の明確化はKJ法を、設定した課題の解決順の決定は2次元展開法を用いました。縦軸を重要性、横軸を緊急性としたグラフに、KJ法で明らになった課題点を配置し、両方の指標が高いものから最優先課題を決定しました。

決定した課題について検討し、病院見学実習で学んだことや医師・看護師が地域医療に求められることや実施すべきことをまとめ、発表資料を作成しました。

より良い発表をするために時間いっぱいまで、ブラッシュアップを重ねているグループもあり、熱心に取り組む様子が印象的でした。

《奈良県の医療と病院に関する発表会》

22班を6会場に分け、発表会を行いました。

会場ごとに教養教育部門と看護学科の教員各1名がファシリテーターとして立ち会い、発表の仕方や資料の見せ方等についてコメントをしました。

すべての班の発表後、午後のシンポジウムで発表する代表班を学生自身の話し合いにより選出しました。代表班選出後、シンポジウムで発表する代表班のために、会場の学生が意見を出し合い、発表内容や方法のブラッシュアップを行いました。

《奈良県の医療と病院に関するシンポジウム》

病院見学実習先から以下の4名の方をコメンテーターとしてお招きし、大講堂でシンポジウムを開催しました。司会は、地域医療学講座の大前助教、ファシリテーターは、嶋医学部長と総合医療学講座の吉本教授、酒井教養教育部長が担当されました。

午前の発表会で代表となった6班が発表を行い、各班の発表後にはコメンテーターの方々から実際の医療状況や各病院の現状、取組み内容も踏まえコメントをいただきました。すべての班の発表後に、全22班の投票により決定した1位～3位の班及びコメンテーター特別賞の受賞班を追加し、嶋医学部長から表彰を行いました。

シンポジウムの最後には、コメンテーターの方々から講評を賜りました。コメンテーターの方からは、病院見学実習を含めた様々な授業が発表に活かされていることに感心を受けたことや、今回の経験を活かし時代に応じた多様なスキルを持つ医師・看護師を目指してほしい、是非来年も病院見学に来てほしいことなどのコメントがありました。実際に見学した病院の方からお話を聞くことで、奈良の医療について考える学生にとってかけがえのない貴重な体験となりました。

【コメンテーター】

南奈良総合医療センター	小畠 康宣	病院長
済生会奈良病院	山田 高嗣	副院長
大和高田市立病院	数中 優子	副看護局長
	森 諭司	臨床工学技士長

■ 奈良学を受講した学生の感想

奈良学は寒さとの戦いでもありました。自然学習という名の遠足、病院見学共に雪が降る中を歩く行程があり、奈良の冬の寒さを体感しながらの学びでした。一方、物理的な寒さとは異なり病院見学では地域に根差した病院だからこそその温もりがありました。済生会御所病院を見学させていただいたのですが、退院後の生活につながる医療のあり方を教えていただき、地域医療のあり方の一片を見ることができたように思います。その他の授業も興味深く、奈良学で知った奈良の魅力に実際に触れていきたいと思わされる五日間でした。

1位の班を代表して医学科1年生の八尾さん

奈良の文化や歴史、医療などについて理解を深める事ができました。僕は愛知出身で大学から奈良に来ているため、奈良の文化や歴史、医療についてほとんど何も知らなかったです。今回の奈良学を通して、新たに奈良の3000年の歴史や食文化、建築様式などを学べてよかったです。また、今の奈良県が抱える医療問題について学び、考えることで、将来奈良で医師として働く姿がイメージできました。

医学科総代 片山さん

奈良学を受講したことにより、奈良の歴史や文化について理解を深めることが出来たと感じました。教科書を読んでいるだけでは知ることの出来なかった物事を学び、今までよりも視野が広がったように思います。また、「奈良県の医療問題やその対策について」では、皆が一丸となって学び、考え、活発な意見交換を行っている姿が見受けられました。この講義で得たことを糧にし、良き医療人になれるよう、これからも日々精進し、成長して行きたいと思います。

末筆ではございますが、奈良学に携わっていただいた方々に感謝を申し上げます。

看護学科総代 長崎さん



1位の班



2位の班



3位の班



コメンテーター特別賞の班

2.14

「AI 北海道会議」設置記念シンポジウムにてMBT講演しました

北海道庁、内閣府は北海道における AI（人工知能）の活用可能性を探る「AI 北海道会議」を札幌プリンスホテルにて開催しました。

そこで MBT 研究所 梅田副所長は沼田町事例を主に北海道での活動、電力データを活用したライフスタイルセンシングおよびデータを活用したライフスタイル AI について講演されました。電力データを活用した新ビジネスの可能性を示し、AI 導入の課題や企業間連携の重要性も指摘、実用化に向けた具体的な戦略が話し合われました。

今後も MBT 構想実現に向け積極的に展開を図っていくと共に地域産業の発展や社会課題解決に取り組んでまいります。



2.20

南十勝夢街道プロジェクト推進会議にてMBT講演しました

南十勝地域の持続可能な発展を目指す「南十勝プロジェクト推進会議」が更別村社会福祉センターにて開催されました。

自治体、企業、農業・観光関係者らが集まり、地域活性化に向けた具体的な施策が議論される中、MBT 研究所 梅田副所長が“医学を基礎とするまちづくり”と題し、北海道沼田町、更別村、喜茂別町にて展開する電力データを活用したライフスタイルセンシングによる健康管理、見守りについてのデータを含めた事例を紹介しました。

持続可能なまちづくりに向け、官民が連携しながら具体的な行動計画を進める方針が確認され、データを活かしたライフスタイル AI による現場の労務軽減、コスト削減など今後さらなる MBT の発展が期待されています。



2.20

奈良臨床漢方医学セミナーを開催しました

大和漢方医学薬学センターでは、医療従事者を対象に奈良臨床漢方医学セミナーを開催しております。

2月20日に本学教育開発センター 若月副センター長の司会で、愛知医科大学 特命特任教授／中津川市地域総合医療センター センター長 伴 信太郎先生、3月5日に本学精神医学 岡田教授の司会で、東北医科薬科大学 精神科教授 山田和男先生にご講演いただきました。総合診療科領域と精神科領域のそれぞれの漢方薬の活用について講演をいただき、それぞれの受講者は熱心にメモを取りながら、聴講する姿が見られました。

今後も漢方に関するセミナーを予定しております。開催の際には、一斉メール等でお知らせしますので、多くの先生方のご参加をお待ちしております。



座長を務める教育開発センター 若月副センター長



講演を行う愛知医科大学 特命特任教授／中津川市地域総合医療センター センター長 伴 信太郎先生



座長を務める精神医学 岡田教授



講演を行う東北医科薬科大学 精神科教授 山田和男先生

2.21

一類感染症患者受け入れ訓練を実施しました

奈良県で唯一の第一種感染症指定医療機関である当院では、エボラウイルス感染症を想定した訓練を実施しました。43名の様々な診療科の医師、看護師に加え放射線技師や学生も参加し、シミュレーターを用いて診療や看護の訓練を行いました。

防護服着用時は視界が狭まり、声が聞き取りづらく、採血などの処置も困難になるため、コミュニケーションエラーや針刺し事故のリスクが高まることを再認識しました。定期的な訓練が新型コロナへの迅速な対応に役立った経験を活かし、今後も実践的な訓練を重ね、感染症に関する対応力を高めていきます。



診察検体採取・静脈確保



胸部レントゲン撮影～画像確認

2.27

第20回地域医療連携懇話会を開催しました

地域医療連携懇話会は、地域の医療関係者のご協力のもと今年で第20回を迎えることが出来ました。当日は、160名を超える申し込みがあり、会場への飛び入り参加も多く活発な意見交換がありました。

今回は、講演Ⅰ 附属病院 総合診療科 吉本 清巳 教授から「大学病院が関わる在宅医療の教育と在宅医療支援センターによる支援について」と題して、具体的な症例やご自身の経験をもとにお話ししていただきました。

続いて講演Ⅱ 本学 公衆衛生学 今村 知明 教授からは「地域医療構想や医師偏在、かかりつけ医、働き方改革などの医療を取り巻く施策の現状と今後の方向性」と題して、日本の人口動態からみた今後の医療のあり方についてご講演をいただきました。

今後も魅力あるイベントとして、地域医療関係者の皆さまに多数ご参加いただけるよう取り組んでまいりますのでよろしくお願いいたします。



2.28

院内コンサートを開催しました

2月28日、今井町の沢井箏曲院勝美会のみなさまをお招きし、院内コンサートを開催しました。

患者のみなさんに少しでも楽しんでいただけるように、ジブリの「いつも何度でも」や美空ひばりさんの「川の流れのように」など親しみやすい曲を中心に5曲を選曲し、演奏していただきました。

外来1Fの北玄関フロアーホールには、入院中の患者さんなど50名を超える聴衆が集まり、会場には美しい音色が響きました。30分という短い時間でしたが、お箏の本格的な演奏に、会場全体が温かい雰囲気になっていました。療養中のひとときに安らぎを感じていただけたのではないかと、参加した職員もうれしい気持ちになりました。



院内コンサート

2.28

小学校5年生を対象としたDMATの講演を行いました

2月28日14時から、橿原市立今井小学校の5年生66名を対象に、当院DMAT（災害派遣医療チーム）についての講演を行いました。

今回の講演は、近年続発する自然災害に関する報道を通じてDMATに関心を深めた今井小学校からの依頼を契機として行うこととなったものです。

45分間と短い時間でしたが、当院のDMAT用資機材を目の前にした小学生からの熱心な質問もあり、活気に満ちたものとなりました。

今回の講演が、今井小学校5年生にとって有意義なものとなることを期待しています。



講演の様子



DMAT用資機材を見学する小学生

3.7 令和6年度 リサーチ・クラークシップ成果発表会を開催しました

医学科 2 年生を対象に、学内の研究室及び学外の大学・研究機関で研究室配属実習を行う「リサーチ・クラークシップ」を 1 月 6 日（月）～3 月 7 日（金）の約 9 週間実施しました。本科目は、学生自ら直接専門領域の研究内容に触れ、さらには高度な実験科学の進め方を実際に体得することによって、研究活動の意義及びそれを支える研究者の心を理解して research mind を培うことを目的としたプログラムです。今年度は、海外 1 機関、国内 21 機関及び学内 45 教室等で実施しました。また、最終日の 3 月 7 日（金）には、成果発表会を 10 班に分かれて 対面及び Web のハイブリッド形式で開催し、約 9 週間の実習成果の発表を行いました。



成果発表会 優秀賞受賞者の表彰式

私は今回のリサーチ・クラークシップで呼吸器内科学教室の室繁郎教授のご紹介により、京都大学 iPS 細胞研究所の後藤研究室にてヒト iPS 細胞由来の肺胞オルガノイドを用いた家族性間質性肺炎の疾患モデリングとその解析に取り組みました。

最初は研究に関する知識や経験は皆無であったため、成果を出す難しさとその過程の長さを痛感しました。しかし、自分の実験により明確な結果が得られた際には大きな達成感を感じ、それが新たな疑問へと繋がるという研究の奥深さを実感することが出来ました。以前より自分の将来のキャリアについて考えていましたが、研究室の方々とのお話を通して医師としての働き方には自分の想像していた以上に多様な選択肢があることを知ることが出来ました。

最後に、今回のリサーチ・クラークシップ期間中にお世話になった室教授、後藤研究室の皆様へ心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

（後列左から 2 番目 吉田 倫太郎さん）

今回のリサーチ・クラークシップでは、教育開発センターの若月教授のご紹介で、早稲田大学先進理工学部生命医科学科大島研究室において、「マウスの 1 週間 Cuprizone 暴露における CRMP4 欠損の影響」というテーマで研究に取り組みました。

研究についての知識や経験が全く無かったため不安な気持ちが大きかったのですが、大島教授をはじめ先輩方が親切に教えてくださり、様々な手技や解析方法などを勉強させていただきました。難しかったのですが、一人で実験をして結果が出た時には達成感がありました。また、先輩方の姿から学ぶことも多く、とても良い刺激をもらいました。今回の経験を通して、医学の発展には研究が欠かせないものであることを実感し、より研究に興味を持つことができました。

（後列左から 5 番目 寺田 美咲さん）

この度、リサーチ・クラークシップにて血栓止血先端医学講座の辰巳先生、三谷先生のもとで「アセトアミノフェン誘発急性肝炎モデルにおける血小板の関与」について研究させていただきました。

本研究を行うにあたり何の経験もない状態でしたが、先生方の非常に丁寧な指導があったおかげでマウスへの薬剤の投与など、様々な研究の所作を学ばさせていただきました。仮説通りの結果が得られないときもありましたが、それをまた次の研究に活かすといった、医学研究のあり方の一端を知ることでもできたと感じました。元々、臨床医を志していましたが研究に興味も湧き、これからのキャリアにおいてこの経験は非常に大きなものになると思います。

最後になりますが、改めて本研究中お世話になりました研究室の先生方に厚く感謝申し上げます。ありがとうございました。

（前列右端 津本 勇貴さん）

本年度のリサーチ・クラークシップは、学内 45 教室、学外（国内）21 機関、学外（海外）1 機関のご協力のもとに、無事に終了することができました。コロナ禍でオンライン開催が続いていた発表会を対面で開催し、Zoom も併用することで、学外でのご指導いただいた先生方にもご視聴いただきました。対面開催とすることで、発表会の合間に、リサーチ・クラークシップでの経験や成果を学生同士が直接話している様子も見受けられ、アカデミックな探究心の醸成という本科目の目標を、若干なりとも達成できた感触を持ちました。これもひとえに、諸先生方のご指導あってのことであり、厚く感謝申し上げます。今後とも、どうぞよろしくお願いいたします。

（科目責任者 堀江基礎教育部長）

3.17
3.25

協定大学共同研究助成事業成果報告会を開催しました

協定大学である奈良先端科学技術大学院大学との連携活性化を目的に、令和元年度より共同で共同研究助成事業を行っております。毎年度末には研究成果報告会を実施しており、今年は下記採択課題について成果報告会を開催しました。

「柿タンニンにインスパイアされたカテキンを有する新しい抗ウイルス高分子材料を基盤とした創薬への挑戦」

本学代表者：免疫学 北畠 正大 講師
奈良先端大共同研究者：ナノ高分子材料研究室 Nalinthip Chanthaset 助教



免疫学 北畠正大講師

「ヒト胃オルガノイド培地の開発と萎縮性胃炎の病態解析」

本学代表者：消化器・総合外科学 庄 雅之 教授
奈良先端大共同研究者：幹細胞工学研究室 栗崎 晃 教授



消化器・総合外科学 庄 雅之教授

また、共同研究助成事業の選考を行い、令和7年度の採択は、下記の2件に決定いたしました。

アスタキサンチンとクロロフィルの複合化による相乗的な活性酸素消去機能とその機序の解明

本学代表者：化学 酒井 宏水 教授
奈良先端大共同研究者：光反応分子科学研究所 河合 壮 教授

アジュバント併用肝動脈化学塞栓術が拓く腫瘍免疫微小環境の変容：ラット肝細胞癌モデルを用いた免疫学的・放射線学的解析

本学代表者：放射線診断・IVR学 南口 貴世介 助教
奈良先端大共同研究者：機能ゲノム医学研究室 石田 靖雅 准教授
分子免疫制御研究室 河合 太郎 教授

3.21 MBT みんなで守るいのちの上映会を開催しました

3月21日、本学にて「MBT 難病克服キャンペーン」の一環として、神経難病 ALS（筋萎縮性側索硬化症）患者である武藤将胤氏を迎え、ドキュメンタリー映画『NO LIMIT, YOUR LIFE』の上映会およびトークセッションを開催しました。本イベントは脳神経内科学講座・杉江和馬教授による授業の一環として実施され、上映前には ALS の医学的基礎に関する講義も行われました。

広告業界で活躍中に ALS と診断された武藤氏は、病と向き合いながらも「一般社団法人 WITH ALS」を立ち上げ、最新テクノロジーを活用した啓発活動を全国で展開されています。当日は映画監督の毛利哲也氏、視線入力コミュニケーション技術の開発者である吉藤オリィ氏も登壇し、約 200 名の参加者（本学医学科 3 年生と一般市民）が勇気と感動を共有しました。



1.30
2.28
3.28

MBT 研究所運営会議を開催しました

MBT 研究所では、月に一度 運営会議を開催し、MBT コンソーシアムと連携して行う新産業創生・新製品開発やまちづくりに関わる産学連携テーマの進捗報告や社会貢献活動の取組みについて、情報の共有や課題対応策の検討を行っています。

産学連携テーマでは、マッチングの取り組み状況や今後の進め方について議論を行い、加えて産学連携活動を通じて MBT 連携企業の勧誘状況報告や MBT の知名度を高める広報活動の在り方についても議論を行っています。

また、夢洲での 2025 大阪・関西万博やけいはんな万博にも参加の機会を得たことから講演や展示の方法を議論し、大阪ヘルスケアパビリオンでは細井理事長のタイトル「未来の健康長寿社会に挑む奈良県立医科大学の MBT 活動」講演等を行うなど MBT 活動の範囲を広げ、MBT の活動目的を国内外の多く

の人に知っていただけるよう努めてまいります。

ご意見や提案等ございましたら、ぜひお聞かせください。



受賞者報告

Winner Report

10.28

宮田幸比古記念 ALS 研究助成基金を受賞しました

脳神経内科学 助教 七浦 仁紀

「孤発性 ALS における相分離異常の解明とその制御による治療法開発」に関する研究が評価され、このたび、宮田幸比古記念 ALS 研究助成基金より助成金（100 万円）を拝受いたしました。今回の受賞は大変光栄であり、身の引き締まる思いです。

本研究では、神経難病のひとつである ALS において、細胞内の相分離異常がどのように病態に関与しているかを明らかにし、病気の進行メカニズムの理解と、新たな治療アプローチの開発を目指しています。

このような機会を得られたことを励みに、今後さらに研究を深化させていく所存です。御指導いただいた脳神経内科学の杉江和馬先生、未来基礎医学の森英一朗先生をはじめ、これまで多くの方々からいただいたご助言とご支援に、心より御礼申し上げます。



11.12

武田科学振興財団研究助成金を受賞しました

脳神経内科学 助教 七浦 仁紀

この度、「遺伝性精神神経疾患の神経変性機序の解明」を研究テーマとして、武田科学振興財団研究助成金（200 万円）を受賞しました。このような賞をいただき大変光栄に存じます。本研究課題では、神経変性機序の解析から、遺伝性精神神経疾患の病態解明・治療法開発につなげていけたらと考えています。本受賞を励みとし、今後研究を展開していきたいと思っています。これまで御指導いただいた多くの皆様に厚く御礼申し上げます。



10.4

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が奈良県・大学等発スタートアップ支援補助金に採択されました

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」は、令和6年度の奈良県・大学等発スタートアップ支援補助金の交付対象事業に採択されました。「大学等発スタートアップ支援枠」において「アカデミア発技術シーズの集約による分子動態創薬基盤技術」の開発に取り組みます。

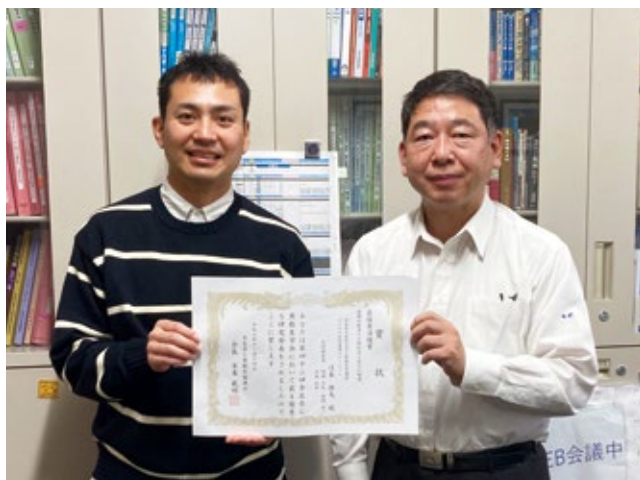
11.14

第42回奈良県公衆衛生学会において最優秀演題賞を受賞しました

公衆衛生学 博士後期課程4年 辻本 雄大

第42回奈良県公衆衛生学会におきまして、演題「後期高齢者の口腔状況と死亡の関連」が最優秀演題賞を受賞致しました。本研究は、厚労科研「地域の実情に応じた医療提供体制の構築を推進するための政策研究(241A1009)」の一環として行われました。地域在住高齢者に対する歯科健診結果とその後の死亡について追跡調査し、問診を含む口腔内の状態不良や口腔ケア習慣がないことは、その後、4年3ヶ月以内の死亡の発生に影響を与える可能性を示唆しました。

本演題の受賞に際しまして、ご指導いただきました今村教授並びに明神先生、西岡先生をはじめ、本研究に関わっていただいた全ての皆様に感謝申し上げます。本受賞を励みに今後の日常臨床・研究に精進してまいります。



12.2

Radiological Society of North America (RSNA) 2025 Education Exhibit Awards 受賞

放射線診断・IVR学 医員 入里 真理子

12月1日から12月5日にかけて行われた第110回北米放射線学会(RSNA 2024)において、Certificate of Merit (Education Exhibit Awards)を受賞しました。一昨年のCum Laude、昨年のCertificate of Meritに続く3年連続の受賞となりました。今回受賞した演題は、肝細胞癌の画像診断における、さまざまなモダリティでの定量的な指標について、臨床との関わりを中心にこれまでの報告をまとめたものになります。昨年、一昨年とRSNAで肝細胞癌を含む腹部悪性腫瘍の予後予測や治療効果予測に関連する演題をまとめました。その中で、画像モダリティを用いた定量的な測定値がさまざまな測定方法や解釈の上で用いられていることを知りました。今回はそれらの背景となる肝細胞癌の病理や血流動態などを振り返りながら、定量値の本質的な意味、臨床応用の実際、現在の問題点について整理するような内容になっています。これからもIVRで癌患者さんの治療に貢献できるよう、より一層の努力を重ねていきたいと思っています。この場をお借りしてご指導いただいた田中利洋教授はじめ、指導いただきました南口貴世介先生、放射線診断・IVR学講座の先生方に感謝申し上げます。



Winner Report

12.15 西日本医学生学術フォーラム 2024 において奨励賞を受賞しました

医学科3年 松井 嘉威 (循環器内科)

この度、12月15日に関西医科大学で開催された西日本医学生学術フォーラム 2024 において口頭発表を行い、奨励賞を受賞いたしました。受賞演題は、「心収縮力の保たれた心不全のモデルマウスの開発」です。本研究は心不全の中でも近年問題になっている HFpEF について、マウスで病態を再現することで日本人に適した新しいモデルマウスを作成し検討を行ったというものです。今回の受賞を励みとして、今後も精進してまいります。本発表にあたりご指導を賜りました彦惣教授、中田先生をはじめ、循環器内科学講座の先生方、一緒に研究を行っている医学科4年の譲尾先輩に深く感謝申し上げます。



1.25 第31回肝血流動態・機能イメージ研究会において優秀演題賞を受賞しました

放射線診断・IVR学 助教 國近 瑛樹

この度、1月25日に大阪市で開催された第31回肝血流動態・機能イメージ研究会において発表した「治療前 EOB 造影 MRI をイメージングバイオマーカーとした切除不能肝細胞癌に対するアテゾリズマブ+ベバシズマブ併用療法の治療効果予測」が優秀演題賞を受賞いたしました。本研究では、治療開始前の MRI 画像を用いて、全身薬物療法の治療効果を予測するモデルに関する報告をしました。ご指導くださった田中利洋教授ほか多くの先生方にこの場を借りて心より感謝申し上げます。



1.29 奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が Deep Tech Venture of the Year 2025 を受賞しました

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」は、ディープイシューの解決に挑むディープテックベンチャーを表彰する「Deep Tech Venture of the Year 2025」で、設立3年以内の「スタートアップ部門」に表彰されました。



2.19 奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」が三菱 UFJ 技術育成財団・研究開発助成金に採択されました

未来基礎医学 准教授 森 英一郎

奈良医大発ベンチャー「モルミル株式会社」は、公益財団法人 三菱 UFJ 技術育成財団によりモルミルが 2024 年度第2回研究開発助成金の交付先に選ばれました。応募総数 60 件の中から、新規性・独自性に富んだ技術を開発しその実用化により、産業・社会の課題に対してソリューションや新たな付加価値を提供可能な5件のプロジェクトが、審査委員会にて選定されました。



3.25 日本アレルギー学会 2025 年度サノフィ優秀論文賞を受賞しました

皮膚科学 講師 宮川 史

この度、昨年掲載された論文、Miyagawa F et al, Type I Interferon derived from Ly6Chi monocytes suppresses type 2 inflammation in murine model of atopic dermatitis. Journal of Investigative Dermatology 2024 に対して、日本アレルギー学会 2025 年度サノフィ優秀論文賞を賜りました。

近年、生物学的製剤による治療が全盛期を迎えていますが、一方で生物学的製剤により特定の疾患の病態に関与するサイトカインを抑制することで、別の免疫経路が優位になり逆説的反応を

生じることが問題化しています。実際、日常診療で逆説的反応により薬剤を中止せざるを得ない患者さんを何人か経験し、少しでも逆説的反応の機序の解明に迫りたいと思いました。そこで、まず各疾患の免疫応答において抑制性サイトカインを明らかにする目的で、Type2 免疫応答であるアトピー性皮膚炎から研究を始め成果を上げることができました。このような機会を与えて頂きました浅田教授に心から感謝申し上げます。

令和 6 年度 学位授与の状況

博士 (医学)

次の 43 名に博士 (医学) の学位が授与されました。
(甲は「主科目」を、乙は「所属」を表しています。)

学位授与日 令和 6 年 6 月 26 日 (水) 9 名

(甲)	岡田 博	運動器再建医学
	岡本 公一	運動器再建医学
	水井 亮	精神医学行動神経科学
	高田 涼平	精神医学行動神経科学
	清水 卓斗	泌尿器病態機能制御医学
	甲谷 太一	侵襲制御・生体管理医学
	西村 信城	総合臨床病態学
(乙)	中川 隆志	発達・成育医学
	小森 崇史	精神医学行動神経科学

学位授与日 令和 6 年 9 月 27 日 (金) 4 名

(甲)	紙谷 史夏	糖尿病・内分泌内科学
	中西 佑季子	皮膚病態医学
	中村 卓也	循環器病態制御医学
	鈴鹿 隆教	侵襲制御・生体管理医学

学位授与日 令和 6 年 12 月 26 日 (木) 7 名

(甲)	久保 貴裕	消化器病態・代謝機能制御医学
	岡本 恵介	腎臓病態制御医学
	松岡 大輔	運動器再建医学
	伊藤 真理奈	運動器再建医学
	山口 泰成	精神医学行動神経科学
	立入 哲也	画像診断・低侵襲治療学
	五十川 雅裕	臨床実証医学

学位授与日 令和 7 年 3 月 14 日 (金) 23 名

(甲)	佐々木 弘光	脳神経機能制御医学
	細田 千裕	血栓止血先端医学
	濱田 恵理子	呼吸器病態制御医学
	藤本 侑花	精神医学行動神経科学
	鶴田 啓亮	生体高分子学
	椿 康輔	微生物学
	西田 亮一	分子腫瘍病理学
	額賀 翔太	分子腫瘍病理学
	川崎 亮平	血栓止血先端医学

浅田 翔平	消化器病態・代謝機能制御医学
小泉 有利	消化器病態・代謝機能制御医学
田中 美彩子	消化器病態・代謝機能制御医学
松田 卓也	消化器病態・代謝機能制御医学
寺井 太一	消化器機能制御医学
齊藤 謙一郎	運動器再建医学
加藤 宜伸	運動器再建医学
撫井 貴弘	運動器再建医学
前花 知果	女性生殖器病態制御医学
大西 弘樹	精神医学行動神経科学
木村 隆浩	耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
植田 景太	耳鼻咽喉・頭頸部機能制御医学
國近 瑛樹	画像診断・低侵襲治療学
(乙) 前田 新作	画像診断・低侵襲治療学

奈良県立医科大学大学院博士課程研究奨励賞

甲の学位論文申請者のうち主科目指導教員が推薦した者の中から
医学の研究に最も優れた論文の申請者
佐々木 弘光 脳神経機能制御医学

修士 (医科学)

次の 5 名に修士 (医科学) の学位が授与されました。

内橋 洋介	リハビリテーション医学
大前 和人	血液・血流機能再建医学
笹木 庄吾	リハビリテーション医学
鈴木 久恵	病理診断学
安池 絵音	感染免疫学

修士 (看護学)

次の 10 名に修士 (看護学) の学位が授与されました。

花井 加世子	看護学コース論文コース (高齢者看護学)
千葉 泉海	看護学コース論文コース (がん看護学)
渡邊 美和子	看護学コース論文コース (公衆衛生看護学)
石田 愛結	高度実践コース (周麻酔期看護学)
平井 紗耶香	高度実践コース (周麻酔期看護学)
岸本 弥々	助産学実践コース (女性健康・助産学)
清谷 愛佳	助産学実践コース (女性健康・助産学)
中 萌々佳	助産学実践コース (女性健康・助産学)
前田 七海	助産学実践コース (女性健康・助産学)
森 水輝	助産学実践コース (女性健康・助産学)

Winner Report

4.17 IJU Reviewers of the Year 2023 を受賞しました

泌尿器科学 准教授 三宅 牧人

このたび、International Journal of Urology (IJU) の優秀な査読者に贈られる IJU Reviewers of the Year 2023 を受賞いたしました。IJU は 1994 年初刊の日本泌尿器科学会による英文機関雑誌です。毎年多くの泌尿器科関連の研究論文が投稿され、査読者には迅速かつ質の高い査読が求められます。今後も泌尿器科の基礎、トランスレーショナル、臨床研究の発展のために、最善を尽くして参ります。



インフォメーション

Information

4.27 WONCA APR 2025 で Promising Research Award を受賞しました

総合医療学 医員 佐和 明裕

4月23日～27日に韓国釜山で開催された WONCA Asia Pacific Regional Conference 2025 (世界家庭医機構アジア太平洋地域学術集会)において、演題「The Influence of Life Purpose on Physical Function and Well-Being in Elderly Patients in Remote Areas: Insights from "the Uda Mobile Clinic"」を発表し、Promising Research Award を受賞いたしました。当講座が宇陀市で取り組む「移動診療車」介入地域の高齢者における、生きがいと身体機能の関連について報告しました。今回の発表に際してご指導いただきました先生方に感謝申し上げます。今後もプライマリ・ケアの実践とその研究に貢献できるよう精進いたします。



公開講座情報

第7回わい和いNARA在宅サポート研究会研究発表会

【協賛】奈良県立医科大学80周年記念及び新キャンパスオープン記念事業実行委員会 【後援】MBTコンソーシアム

日時：2025年6月7日(土) 10:00-15:20 場所：奈良県立医科大学畝傍山キャンパス 講義棟 大講義室

概要：テーマ／災害時に備える、つながる—在宅療養者の支援—【大会長】榎原訪問看護ステーション所長 池之畑直子
プログラム／大会長講演、シンポジウム、ポスターセッション、パネルディスカッション

参加費：無料

問合せ先：奈良県立医科大学医学部看護学科在宅看護学 0744-22-3051 (内線 693309)

令和7年度入試結果

		募集人員	志願者数 (A)	受験者数	合格者数 (B)	追加合格者数 (Bの内数)	入学者数	志願倍率 (A/B)	前年度倍率
医学科	推薦 (緊急医師確保)	15	117	112	15	0	15	7.8	8.6
	推薦 (地域枠)	22	123	121	22	0	22	5.6	5.5
	前期	22	48	25	22	0	22	2.2	3.9
	後期	53	981	254	63	10	53	15.6	14.7
	編入学 (研究医)	1	3	3	1	0	1	3.0	1.0
	編入学	2	28	26	4	2	4	7.0	12.5
	小計	115	1,300	541	127	12	117	10.2	11.6
看護学科	推薦 (地域枠)	35	93	93	35	0	35	2.7	2.5
	前期 (一般枠)	40	50	48	41	1	40	1.2	1.8
	前期 (地域枠)	10	43	41	10	0	10	4.3	4.4
	小計	85	186	182	86	1	85	2.2	2.4
医学部	合計	200	1,486	723	213	13	202	7.0	7.9

未来への飛躍基金だより

平素より、未来への飛躍基金への多大なご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。皆様からいただいたご寄附は、教育、研究及び診療活動への支援、大学及び附属病院の施設整備等、幅広く活用させていただいております。

紺綬褒章について

紺綬褒章は国の褒章制度の一つで、公益のために私財を寄附された方に授与される褒章です。未来への飛躍基金に500万円以上のご寄附をいただいた方(個人)及び1,000万円以上のご寄附をいただいた団体は、紺綬褒章授与の対象となります。あらかじめ分納のお申し出をいただいたご寄附も含まれます。

紺綬褒章申請を希望される場合は、分納のお申し出と合わせて、詳しくは総務広報課までお問合せください。



紺綬褒章伝達式



紺綬褒章(褒章・章記)

寄附者銘板について

ご寄附いただいた方々への感謝の気持ちを込めて、顕彰制度を設けています。寄附額が30万円以上(複数回のご寄附をいただいた場合はご寄附合計額)の方々のご芳名を刻んだ銘板を附属病院1階に設置しています。

- ゴールドプレート 個人・法人1千万円以上
- シルバープレート 個人・法人100万円以上
- ブロンズプレート

個人30万円以上/法人50万円以上



寄附者ご芳名の銘板(附属病院1階)

The donation person name

寄附者ご芳名

「未来への飛躍」基金にご協力いただきありがとうございました

平素より未来への飛躍基金へのご理解とご協力をいただき、心から御礼申し上げます。今号では令和6年12月～令和7年3月にご寄附いただいた方々のご芳名を掲載しております。

【個人】

◆100万円以上

大鶴 昇 様 北口 勝康 様 國分 清和 様
善本英一郎 様

◆30万円以上100万円未満

伊藤 高広 様 片山 鑑 様 庄 雅之 様
城谷 敬子 様 城谷 知彦 様 高濱 誠 様
鶴屋 和彦 様 中田 荷葉 様 橋本 浩 様
矢野 優太 様 吉岡 章 様

掲載を希望されない寄附者様 3名

◆10万円以上30万円未満

井上 進敬 様 大槻 武司 様 川口 昌彦 様
木下 國浩 様 田中 末子 様 田邊 香 様
田山 準子 様 西川 義弘 様 松井 一哲 様
宮武 聡子 様 山本 清誠 様

掲載を希望されない寄附者様 10名

◆10万円未満

今村 知明 様 江里口雅裕 様 岡安 唯 様
岸田 勇人 様 貴宝院邦彦 様 小竹久実子 様
坂田 達紀 様 佐藤 慎哉 様 鮫島 謙一 様
野村 泰充 様 浜崎 直樹 様 細川 彰子 様
本田 孝雄 様 村上 真也 様

掲載を希望されない寄附者様 26名

◆金額の公表を希望されない寄附者様

五十川雅裕 様 井上 毅 様 裏山 悟司 様
太田 一郎 様 奥田 淳 様 齋藤 昌宏 様
高濱 潤子 様 谷口 晃 様 長村 徹 様
橋爪 隆 様 松本 雅則 様 山中富美男 様
米今 諒 様

【法人】

◆100万円以上

アステッキホールディングス株式会社 様
一般財団法人 弘済会 様

◆10万円以上30万円未満

崇徳寺 様

【奈良県立医科大学 総務広報課 未来への飛躍基金】

TEL: 0744-22-3051 (内線 2803) E-mail: hiyakukikin@naramed-u.ac.jp

【未来への飛躍基金 HP】 <https://hiyakukikin.naramed-u.ac.jp> または「未来への飛躍基金」で検索!



Media Listing Information

新聞・雑誌・テレビ等マスコミの取材、テレビ出演、記事を掲載された教職員・学生を紹介します。

日付	媒体	対象者	掲載概要
2024年	12月24日 日本経済新聞	臨床研究センター 化学 血液内科学	教 授 笠原 正登 教 授 酒井 宏水 教 授 松本 雅則 本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
	12月24日 知財図鑑	臨床研究センター 化学 血液内科学	教 授 笠原 正登 教 授 酒井 宏水 教 授 松本 雅則 血液型を問わずに使える血液製剤「人工赤血球製剤」が知財番付2024 金賞受賞
2025年	1月12日 読売新聞	公衆衛生学	教 授 今村 知明 墓じまい都市部でも 改葬先「合葬墓」に注目
	1月27日 NHK 奈良		
	1月27日 NHK 奈良		
	1月28日 日本経済新聞		
	1月28日 奈良新聞		
	1月28日 朝日新聞		
	1月28日 毎日新聞		
	1月30日 NHK 大阪 おはよう関西	臨床研究センター 化学 血液内科学	教 授 笠原 正登 教 授 酒井 宏水 教 授 松本 雅則 本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
	2月7日 読売新聞		理事長・学長 細井 裕司 理事・副学長 嶋 緑倫 奈良先端工科学連携推進機構設立記者会見
	2月7日 Abema Prime	化学	教 授 酒井 宏水 本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
	2月10日 - 2月23日 KCNファミリーチャンネル(地デジ11ch) 「知って防ごう! 脳と心臓の病気」～奈 良県脳卒中・心臓病オープンセミナー～	脳神経内科学 脳神経外科学 循環器内科学	教 授 杉江 和馬 教 授 中川 一郎 教 授 彦惣 俊吾 知っておきたい! 脳卒中の内科的治療と予防の最前線 知っておこう! 脳卒中に対する外科治療と支援体制 あなたのその症状、心臓弁膜症かもしれませんー心臓弁膜症治療の最前線ー
	2月11日 読売新聞 青森県版	公衆衛生学	教 授 今村 知明 地域と都市部 病院連携 遠隔医療で患者負担減 遠隔医療についてコメント掲載
	2月14日 奈良新聞		県立医大 新キャンパス完成 藤原京モチーフの外観特徴
	2月14日 読売新聞		畝傍山新キャンパス 県立医大が完工式典
	2月14日 毎日新聞		新キャンパス 藤原宮の面影 県立医大 畝傍山の山麓、4月開校
	2月14日 産経新聞		県立医大 新キャンパス完成 畝傍山麓に、4月開校 「医療のさらなる充実を」
	2月15日 朝日新聞		県立医科大 畝傍山望む 樺原に新キャンパス完成
	2月18日 建設新報		県立医大「畝傍山キャンパス」完成 教育・研究・診療のさらなる充実へ
	2月19日 朝日新聞	皮膚科学	教 授 浅田 秀夫 帯状疱疹 ワクチンで防ぐ選択肢 65歳以上 来年度から定期接種
	2月23日 読売新聞 病院の実力 (奈良編)	寄附講座地域医療支援・ 教育学講座	講師(寄附講座) 川崎佐智子 首の病気 痛み・しびれ 早期受診を 予防 背筋伸ばして生活
	2月28日 独立行政法人環境再生保全機構 すこやかライフ No59	呼吸器内科学	教 授 室 繁郎 COPDの基礎知識と最新治療、「健康日本ー21」に対する日本呼吸器学会のプロジェクト「木洩れ陽 COMORE-By2032」に対するインタビュー
	3月1日 日本テレビ 世界一受けたい授業	化学	教 授 酒井 宏水 本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
	3月3日 聖教新聞		理事長・学長 細井 裕司 続報 難聴の聞こえを改善する「軟骨伝導」
	3月4日 NHK Eテレ u & i	精神医学	教 授 岡田 俊 「なんで急に悪口言うの? 〜トゥレット症候群」の医学監修
	3月5日 おもいでばこ	教育開発センター	講 師 城戸 楓 写真が子どもに与える意外な効果とは? ~研究者と3児の母が語る「おもいでばこ」座談会レポート~
	3月6日 読売新聞 医療ルネサンス	精神医学	教 授 岡田 俊 チックの悩み 就労継続 職場の理解重要
	3月7日 NHK 列島ニュース	臨床研究センター 化学 血液内科学	教 授 笠原 正登 教 授 酒井 宏水 教 授 松本 雅則 本学附属病院での備蓄・緊急投与が可能な人工赤血球製剤の第一相臨床試験実施について
	3月7日 NHK Eテレ u & i (再放送)	精神医学	教 授 岡田 俊 「なんで急に悪口言うの? 〜トゥレット症候群」の医学監修
	3月15日 奈良新聞 ならコープ健康大学特別座談会	MBT 研究所	理事長・学長 細井 裕司 副 所 長 梅田 智広 健康寿命確保への予防線 健康で社会貢献を
	3月31日 奈良テレビ ゆうドキッ!	神経内科学	教 授 杉江 和馬 パーキンソン病に関する講演内容の紹介
	4月3日 奈良新聞		理事長・学長 細井 裕司 先端大、奈良医大が設立「エムステックなら」大学等連携推進法人にお墓の引越し県内で過去最多 23年度「改葬」2254件 10年で3倍 墓地の改葬についてコメント
	4月13日 信濃毎日新聞	公衆衛生学	教 授 今村 知明 県立医大で学歌合唱レコーディング 心一つに歌声響かせ 関係者など800人が熱唱
	4月14日 奈良新聞		県立医大で学歌合唱レコーディング 心一つに歌声響かせ 関係者など800人が熱唱
	4月16日 奈良テレビ ゆうドキッ!		県立医科大学開学80周年「学歌」 約1000人の合唱を録音

メディア掲載情報をお寄せください

総務広報課 内線：2206

編集後記

新緑のまぶしい季節となりました。新年度が始まり慌ただしい日々が続きますが、皆様どうぞご自愛ください。このたび、学報の編集委員長が浅田先生から総合医療学の吉本先生へと引き継がれました。これまでご尽力いただいた浅田先生に心より感謝申し上げますとともに、新たな体制のもと、引き続き皆様のご協力をお願いいたします。

